

### 3.2 自然的状況

#### 3.2.1 気象、大気質、騒音、振動等の状況

##### (1) 気象

##### ① 降水量・気温・日照時間

計画区域周辺の気象観測所及び大気汚染常時監視測定局は、図3.2-1に示すとおりであり、計画区域最寄りの気象観測所は鳩山地域気象観測所である。

令和3年及び過去10年間の気象の概要は表3.2-1,2に示すとおりである。

表 3.2-1 鳩山地域気象観測所における気象の状況（令和3年）

月	降水量(mm)				気温(°C)					日照時間(h)
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低			
1	37.0	20.0	2.5	0.5	2.5	10.5	-4.4	17.9	-9.9	176.9
2	41.0	40.5	10.5	2.5	5.4	14.1	-2.5	23.1	-6.4	231.4
3	131.0	66.0	10.0	2.5	10.9	17.2	4.8	25.4	-2.9	187.3
4	60.5	36.5	13.5	3.5	13.8	20.9	6.6	26.6	1.1	219.8
5	84.5	24.0	5.5	2.5	18.7	24.5	13.3	30.4	4.8	148.8
6	130.5	25.0	17.5	9.0	22.5	28.3	17.8	33.1	14.1	139.1
7	305.0	52.5	25.5	12.5	25.7	31.2	21.8	36.8	18.9	174.3
8	162.5	43.5	13.0	11.0	26.8	31.9	22.9	37.8	18.6	165.3
9	122.5	26.0	9.0	3.0	21.6	26.3	17.8	33.2	13.6	112.0
10	117.0	56.5	8.0	2.0	16.8	22.6	11.8	31.0	3.9	173.1
11	61.0	43.0	11.0	3.5	10.6	18.4	4.4	22.6	-2.6	203.4
12	65.5	31.0	9.0	2.5	5.4	12.8	-0.7	20.9	-8.1	217.7
年間	1318.0	66.0	25.5	12.5	15.1	21.6	9.5	37.8	-9.9	1740.8

注1) ) : 統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う。（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。

注2) ] : 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けている（資料不足値）。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合がある。

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

表 3.2-2 鳩山地域気象観測所における気象の状況（平成24年～令和3年）

年	降水量(mm)		気温(°C)			日照時間(h)
	合計	日最大	平均	最大	最低	
平成24年	1,269.0	102.5	14.1	37.6	-9.8	2,102.0
平成25年	1,206.0	100.5	14.6	39.8	-8.9	2,246.8
平成26年	1,651.5	149.0	14.3	38.6	-9.3	2,221.9
平成27年	1,366.5	166.5	15.1	38.3	-7.0	2,028.8
平成28年	1,366.0	204.5	15.1	37.9	-8.2	1,945.2
平成29年	1,404.5	119.5	14.4	37.2	-8.2	2,133.9
平成30年	1,092.0	67.5	15.5	39.8	-10.0	2,182.0
令和元年	1,720.5	312.0	15.2	38.2	-8.3	2,012.2
令和2年	1412.0	106.0	56.0	24.5	15.3	1,971.2
令和3年	1318.0	66.0	15.1	21.6	9.5	1,740.8

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

## ②風向・風速

計画区域周辺の気象観測所及び大気汚染常時監視測定局は、図3.2-1に示すとおりであり、計画区域最寄りの一般環境大気測定局は日高測定局である。

令和3年における月別風向・風速は表3.2-3に、平成24年～令和3年における風向風速の年間推移は表3.2-4に、日高測定局における月別風向頻度は図3.2-2に示すとおりである。

令和3年における最多風向は南西、平均風速は1.6m/sであった。また、過去10年間における年間最多風向は南西であり、平均風速は1.5～1.8m/sであった。

表 3.2-3 日高測定局における月別風向・風速（令和3年）

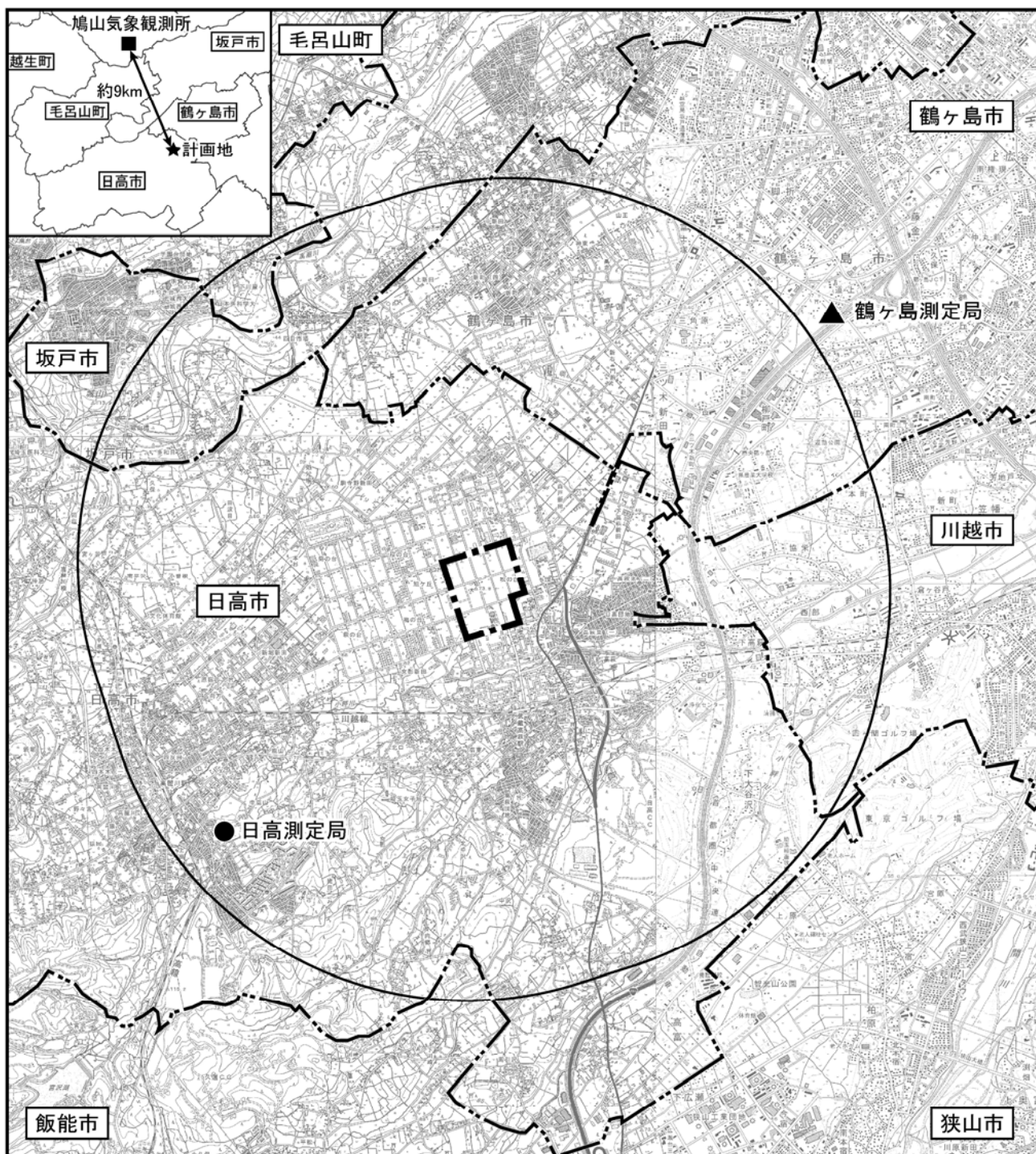
月	最多風向	平均風速(m/s)	最大風速及びその時の風向	
			風速(m/s)	風向
1	南西	1.5	7.4	北
2	南西	1.9	7.5	北北西
3	北	1.9	7.5	北北西
4	南西	2.0	7.8	北
5	南西	1.6	7.1	北北西
6	西南西	1.4	5.7	北東
7	北東	1.2	4.4	北東
8	南西	1.5	5.9	南南東、南
9	西南西	1.1	3.9	南
10	南西	1.4	6.0	北北西
11	南西	1.3	5.1	南西
12	西南西	1.8	7.2	北西
年間	南西	1.6	7.8	北

出典：「埼玉県の気象状況-埼玉県大気汚染常時監視システム」（埼玉県環境部大気環境課ホームページ）

表 3.2-4 日高測定局における風向・風速の年間推移（平成24年～令和3年）

年	最多風向	平均風速(m/s)	最大風速及びその時の風向	
			風速(m/s)	風向
平成24年	南西	1.8	9.7	南
平成25年	北、南西	1.8	9.4	北
平成26年	南西	1.8	9.4	北
平成27年	南西	1.7	8.3	北北西
平成28年	南西	1.7	9.8	北
平成29年	南西	1.7	8.5	北北西
平成30年	南西	1.6	9.5	北東
令和元年	南西	1.6	8.5	北北西
令和2年	南西	1.5	9.0	北北西
令和3年	南西	1.6	7.8	北

出典：「埼玉県の気象状況-埼玉県大気汚染常時監視システム」（埼玉県環境部大気環境課ホームページ）



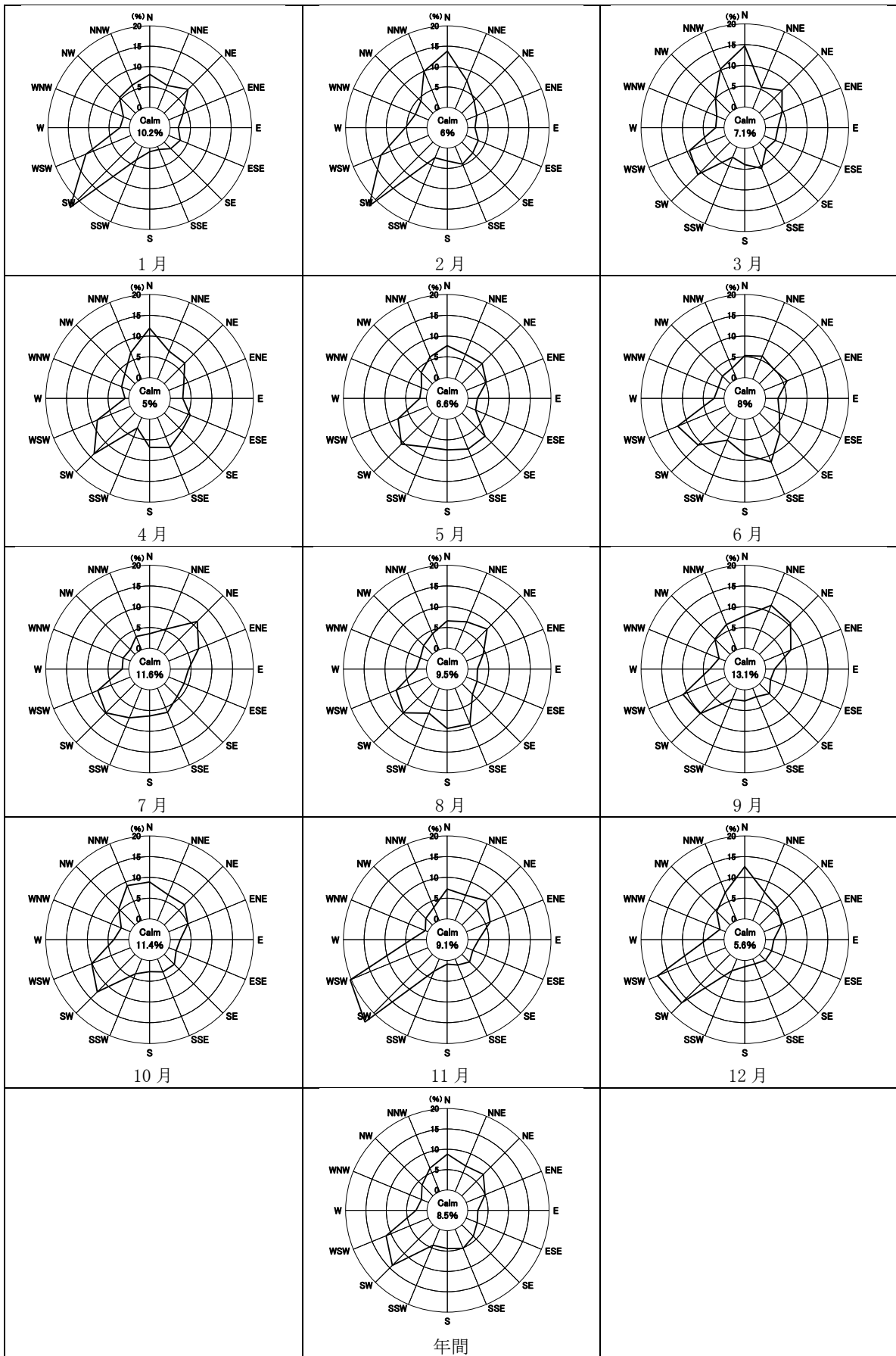
**凡 例**

- 計画区域
- - - 市町界
- 環境に影響を及ぼす地域  
(計画地敷地境界から3km)
- 気象観測所 (左上図)
- 一般環境大気測定局
- ▲ 自動車排出ガス測定局

図3.2-1 気象観測所及び  
大気汚染常時監視測定局位置図

0 500 1,000 2,000m





出典：「埼玉県の気象状況-埼玉県大気汚染常時監視システム」(埼玉県環境部大気環境課ホームページ)

図 3.2-2 日高測定局における月別風向頻度 (令和 3 年)

## (2) 大気質

### ①大気質の状況

計画区域周辺の大气汚染常時監視測定局は、図3.2-1に示したとおりであり、一般環境大気測定局の日高測定局、自動車排出ガス測定局の鶴ヶ島測定局が設置されている。令和元年度における各項目の測定結果は表3.2-5～9に示すとおりである。

各測定局の達成状況を見てみると、日高測定局における光化学オキシダントのみ環境基準を達成できていない。

表 3.2-5 二酸化硫黄の測定結果（令和元年度）

測定局名	年平均値 (ppm)	1時間値 が0.1ppm を超えた 時間数 (時間)	日平均値 が0.04ppm を超えた 日数 (日)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	日平均値が 0.04ppmを超 えた日が2日 以上連続した ことの有無	環境基準の長 期的評価によ る日平均値が 0.04ppmを超 えた日数 (日)	環境基準* 達成○ 非達成×	
							長期的 評価	短期的 評価
日高測定局	0.001	0	0	0.003	無	0	○	○

※：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-6 二酸化窒素の測定結果（令和元年度）

測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下 の日数 (日)	日平均値の 年間98%値 (ppm)	98%値評価に よる日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	環境基準* 達成○ 非達成×
日高測定局	0.007	0	0	0.015	0	○
鶴ヶ島測定局	0.014	0	0	0.026	0	○

※：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-7 光化学オキシダントの測定結果（令和元年度）

測定局名	昼間の 1時間値の 年平均値(ppm)	昼間の1時間値が0.06ppm を超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上 の日数と時間数		環境基準* 達成○ 非達成×
		日	時間	日	時間	
日高測定局	0.033	94	486	0	0	×

※：1時間値が0.06ppm以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-8 浮遊粒子状物質の測定結果（令和元年度）

測定局名	年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値が 0.20 mg/m <sup>3</sup> を 超えた時間数 (時間)	日平均値が 0.10 mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数 (日)	日平均値の 2%除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	日平均値が 0.10 mg/m <sup>3</sup> を 超えた日が 2日以上連続 したことの 有無	環境基準の 長期的評価による 日平均値が 0.10 mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数 (日)	環境基準* 達成○ 非達成×	
							長期的 評価	短期的 評価
日高 測定局	0.014	0	0	0.037	無	0	○	○
鶴ヶ島 測定局	0.016	0	0	0.034	無	0	○	○

※：1時間値の1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m<sup>3</sup>以下であること。  
出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-9 微小粒子状物質の測定結果（令和元年度）

測定局名	日平均値の 年平均値 (μg/m <sup>3</sup> )	日平均値の 年間98%値 (μg/m <sup>3</sup> )	日平均値が35μg/m <sup>3</sup> を 超えた日数とその割合		環境基準* 達成○ 非達成×	
			(日)	(%)	長期的 評価	短期的 評価
日高測定局	9.9	22.8	0	0.0	○	○

※：1年平均値が15μg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m<sup>3</sup>以下であること。  
出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（埼玉県環境部大気環境課）

## ②苦情の状況

令和元年度における関係市町の公害苦情件数は、表3.2-10に示すとおりであり、大気汚染に関する苦情は、日高市で33件、鶴ヶ島市で12件、坂戸市で15件、川越市で24件、飯能市で37件、毛呂山町で17件であった。

表 3.2-10 公害苦情件数（令和元年度）

種別 市名	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	振動	地盤 沈下	悪臭	不法 投棄	雑草	害虫	その他	総数
日高市	33	3	—	18	—	—	19	—	—	—	—	73
鶴ヶ島市	12	6	—	1	—	—	11	—	18	—	—	48
坂戸市	15	2	—	16	2	—	2	30	—	—	18	85
川越市	24	2	—	51	5	—	19	—	—	—	—	101
飯能市	37	6	—	16	—	—	13	7	97	17	61	254
毛呂山町	17	3	—	2	—	—	5	—	—	—	7	34

注) 表中の「—」は該当数字なしを示す。

出典：「統計ひだか 令和2年版資料集」（日高市ホームページ）  
「鶴ヶ島市 令和元年度環境報告書」（鶴ヶ島市ホームページ）  
「統計坂戸 令和2年度版」（坂戸市ホームページ）  
「令和3年度版川越市の環境行政」（川越市ホームページ）  
「令和2年度主要な施策の成果説明書」（飯能市ホームページ）  
「令和元年度公害苦情調査」（毛呂山町生活環境課ヒアリング）

### (3) 騒音

#### ①騒音の状況

計画区域周辺における、平成29年度及び令和元年度の道路交通騒音の点的評価結果は表3.2-11に、面的評価結果は表3.2-12に、道路交通騒音の調査地点は図3.2-3に示すとおりである。

点的評価では、国道407号において環境基準を超過していた。その他の地点においては、昼間、夜間ともに環境基準を達成していた。

また、面的評価では、県道川越日高線において昼間、夜間ともに基準値を超過する戸数が多くなっている。

表 3.2-11 道路交通騒音の点的評価結果（平成 29 年度、令和元年度）

年度	番号	調査道路	測定地点	類型	車線数	等価騒音レベル(dB)									
						測定値		環境基準		要請限度					
						昼間	夜間	昼間	夜間	適否	昼間	夜間	適否		
平成29	1	高速道路	関越自動車道	鶴ヶ島市脚折 1384-89	B	6	61	57	70	65	75	70	○		
	2			鶴ヶ島市南町 1-7-22	B	6	61	56					○		
	3			鶴ヶ島市脚折町2丁目 24	B	6	60	56					○		
	4	国道	国道 468 号 (圏央道)	川越市大字笠幡	B	4	63	62					○		
	5			鶴ヶ島市上広谷 590-13	B	4	57	54					○		
	6	国道	国道 407 号	鶴ヶ島市三ツ木 176-5	B	4	67	66					×		
	7			鶴ヶ島市高倉 1246-3	B	2	68	67					×		
	8			鶴ヶ島市大字高倉	B	2	68	67					×		
	9	県道	県道日高川島線	坂戸市大字萱方	B	2	70	65					○		
	10			坂戸市大字森戸	B	2	68	63					○		
	11		県道川越越生線	鶴ヶ島市下新田 230-1	B	2	67	61					○		
	12			鶴ヶ島市太田ヶ谷 662-5	B	2	67	62					○		
	13			鶴ヶ島市大字太田ヶ谷	B	2	67	62					○		
	14			県道川越日高線	日高市大字楡木	B	2	67					64	○	
	15	市道	市道 547-2 号線	鶴ヶ島市三ツ木 252-1	B	2	62	57					65	60	○
	16		市道 758 号線	鶴ヶ島市藤金 876-11	B	2	56	49					65	60	○
令和元	17	高速道路	関越自動車道	鶴ヶ島市南町 1 丁目 7	B	6	60	56	70	65	75	70	○		
	18			鶴ヶ島市大字脚折	B	6	63	59					○		
	19	国道	国道 407 号	日高市大字大谷沢	B	2	73	72					×		

注) 表中の番号は図 3.2-3 の番号と対応している。

出典：「平成 29 年度、令和元年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（埼玉県ホームページ）

表 3.2-12 道路交通騒音の面的評価結果（令和元年度）

評価区間番号	評価対象道路	測定地点における 等価騒音レベル(dB)		評価対象 住居戸数 a=b+c+d+e (戸)	昼間・夜間 とも基準値 以下 b (戸)	昼間のみ 基準値以下 c (戸)	夜間のみ 基準値以下 d (戸)	昼間・夜間 とも基準値 超過 e (戸)
		昼間	夜間					
2015-21150-1	一般国道 407 号	74	73	116	54	27	0	35
2015-62150-2	県道鯨井狭山線	67	61	414	414	0	0	0
2015-41330-1	県道川越坂戸毛呂山線	67	61	1,298	1,298	0	0	0
2015-41350-1	県道川越坂戸毛呂山線	—	—	942	942	0	0	0
2015-330-1	関越自動車道	60	56	229	192	11	0	26
2015-340-1	関越自動車道	63	59	555	552	0	0	3
2015-21140-1	一般国道 407 号	—	—	22	15	7	0	0
2015-21140-2	一般国道 407 号	73	72	84	31	52	0	1
2015-40600-1	県道川越日高線	67	64	1,214	1,213	1	0	0

注) 表中の評価区間番号は図 3.2-3 の番号と対応している。

出典：「令和元年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（埼玉県ホームページ）

「全国自動車交通騒音マップ」（国立環境研究所ホームページ）

## ②苦情の状況

令和元年度における騒音に関する公害苦情件数は、日高市では18件、鶴ヶ島市で1件、坂戸市で16件、川越市で51件、飯能市で16件、毛呂山町で2件であった（表3.2-10参照）。

## (4) 振動

### ①振動の状況

計画区域周辺における、平成29年度の道路交通振動の測定結果は表3.2-13に、測定地点は図 3.2-3に示すとおりであり、全地点において要請限度を下回っている。

表 3.2-13 道路交通振動の測定結果（平成 29 年度）

番号	調査道路		測定地点	区域	車線数	振動レベル (dB)				
						測定値		要請限度		
						昼間	夜間	昼間	夜間	適否
1	国道	国道 407 号	鶴ヶ島市 高倉 1246-3	1	2	51	50	65	60	○
2	市道	市道 547-2 号線	鶴ヶ島市 三ツ木 252-1	1	2	48	38	65	60	○

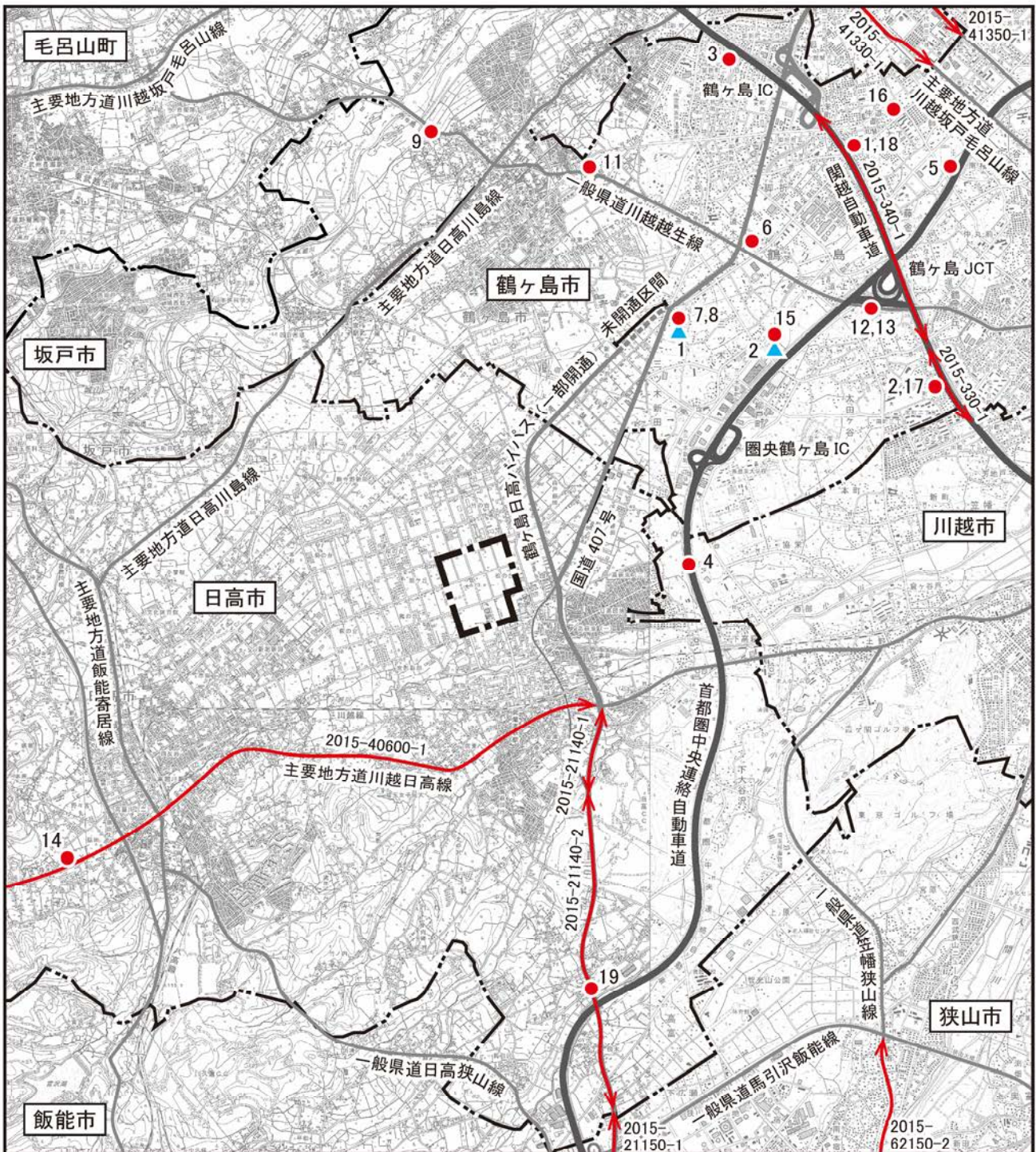
注) 表中の評価区間番号は図 3.2-3 の番号と対応している。

出典：「平成 29 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（埼玉県ホームページ）

## ②苦情の状況

令和元年度における振動に関する公害苦情件数は、坂戸市で2件、川越市で5件であった（表 3.2-10参照）。





**凡例**

- 計画区域
- 市町界
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道、一般県道
- 騒音(点的評価)調査地点
- ↔ 騒音(面的評価)調査地点
- ▲ 振動調査地点

注) 図中の番号は表3.2-11~13の番号と対応している。

出典: 「平成29年度、令和元年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」(埼玉県ホームページ)

図3.2-3 道路交通騒音・振動測定地点



### 3.2.2 水質、底質、水象等の状況

#### (1) 水質

##### ① 河川

日高市では市内を流れる河川について増水期及び濁水期において水質調査を行っている。調査結果は表3.2-14(1)～(4)に、調査地点の位置は図3.2-4に示すとおりである。

増水期においては、高麗川橋下流と鳥ヶ谷戸橋下流のpH、全調査地点の大腸菌群数が環境基準を達成していなかった。

濁水期においては、境橋上流・中田橋下流・上之條公会堂下流のBOD、高麗川橋下流と鳥ヶ谷戸橋下流以外の大腸菌群数、境橋上流と中田橋下流の全亜鉛が環境基準を達成していなかった。

表 3.2-14(1) 水質測量結果（増水期：平成 30 年 7 月 18 日）

調査地点 項目	高麗川	宿谷川	小畔川			環境基準	
	高麗川橋下流	鳥ヶ谷戸橋下流	小畔川橋上流	境橋上流	中田橋下流	A 類型 (生物 A)	B 類型 (生物 B)
pH	<u>8.8</u>	<u>8.6</u>	8.0	7.7	8.1	6.5 以上 8.5 以下	
BOD (mg/L)	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7	2 以下	3 以下
COD (mg/L)	1.7	<u>2.4</u>	5.0	4.4	4.3	—	
SS (mg/L)	1	5	10	2	1	25 以下	
DO (mg/L)	11.8	10.9	8.6	6.9	9.9	7.5 以上	5 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	<u>3500</u>	<u>22000</u>	<u>11000</u>	<u>14000</u>	<u>17000</u>	1,000 以下	5,000 以下
全亜鉛 (mg/L)	<0.003	<0.003	0.018	0.010	0.006	0.03 以下	
ノニルフェノール (mg/L)	<0.00006	—	—	—	<0.00006	0.001 以下	0.002 以下
糞便性大腸菌群数 (CFU/100mL)	<u>140</u>	<u>1000</u>	<u>560</u>	<u>1100</u>	280	—	

注1) 下線は、環境基準または水浴判定基準に適合していないことを示す。

注2) 糞便性大腸菌群の基準については、「水浴場水質判定基準（環境省）」の「水質 A」を示す。

出典：「平成 30 年度日高市の河川水質・水生生物分析調査結果」（日高市ホームページ）

表 3.2-14(2) 水質測量結果（増水期：平成 30 年 7 月 18 日）

調査地点 項目	下小畔川	第 2 小畔川	南小畔川	環境基準	
	上之條公会堂下流 100m	落合橋上流	神流橋上流	A 類型 (生物 A)	B 類型 (生物 B)
pH	7.8	7.9	9.5	6.5 以上 8.5 以下	
BOD (mg/L)	0.8	0.6	0.8	2 以下	3 以下
COD (mg/L)	3.8	3.3	3.9	—	
SS (mg/L)	2	2	4	25 以下	
DO (mg/L)	9.0	9.5	7.3	7.5 以上	5 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	<u>7900</u>	<u>9500</u>	4600	1,000 以下	5,000 以下
全亜鉛 (mg/L)	0.003	<0.003	0.004	0.03 以下	
ノニルフェノール (mg/L)	—	—	<0.00006	0.001 以下	0.002 以下
糞便性大腸菌群数 (CFU/100mL)	140	<u>830</u>	190	—	

注1) 下線は、環境基準または水浴判定基準に適合していないことを示す。

注2) 糞便性大腸菌群の基準については、「水浴場水質判定基準（環境省）」の「水質 A」を示す。

出典：「平成 30 年度日高市の河川水質・水生生物分析調査結果」（日高市ホームページ）

表 3.2-14(3) 水質測量結果（濁水期：平成 31 年 1 月 29 日）

調査地点 項目	高麗川	宿谷川	小畔川			環境基準	
	高麗川橋 下流	鳥ヶ谷戸橋 下流	小畔川橋 上流	境橋 上流	中田橋 下流	A 類型 (生物 A)	B 類型 (生物 B)
pH	8.3	8.1	7.9	7.9	8.0	6.5 以上 8.5 以下	
BOD (mg/L)	0.8	<0.5	0.9	<u>9.6</u>	<u>7.2</u>	2 以下	3 以下
COD (mg/L)	1.3	1.9	3.8	<u>7.8</u>	<u>6.9</u>	—	
SS (mg/L)	<1	6	2	2	2	25 以下	
DO (mg/L)	14.9	13.7	12.8	8.1	12.5	7.5 以上	5 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	33	790	1700	2400	3300	1,000 以下	5,000 以下
全亜鉛 (mg/L)	<0.003	<0.003	0.004	<u>0.10</u>	<u>0.031</u>	0.03 以下	
ノニフェノール (mg/L)	<0.00006	—	—	—	0.00006	0.001 以下	0.002 以下
糞便性大腸菌群数 (CFU/100mL)	5	27	<u>1300</u>	<u>730</u>	<u>1000</u>	—	

注 1) 下線は、環境基準または水浴判定基準に適合していないことを示す。

注 2) 糞便性大腸菌群の基準については、「水浴場水質判定基準（環境省）」の「水質 A」を示す。

出典：「平成 30 年度日高市の河川水質・水生生物分析調査結果」（日高市ホームページ）

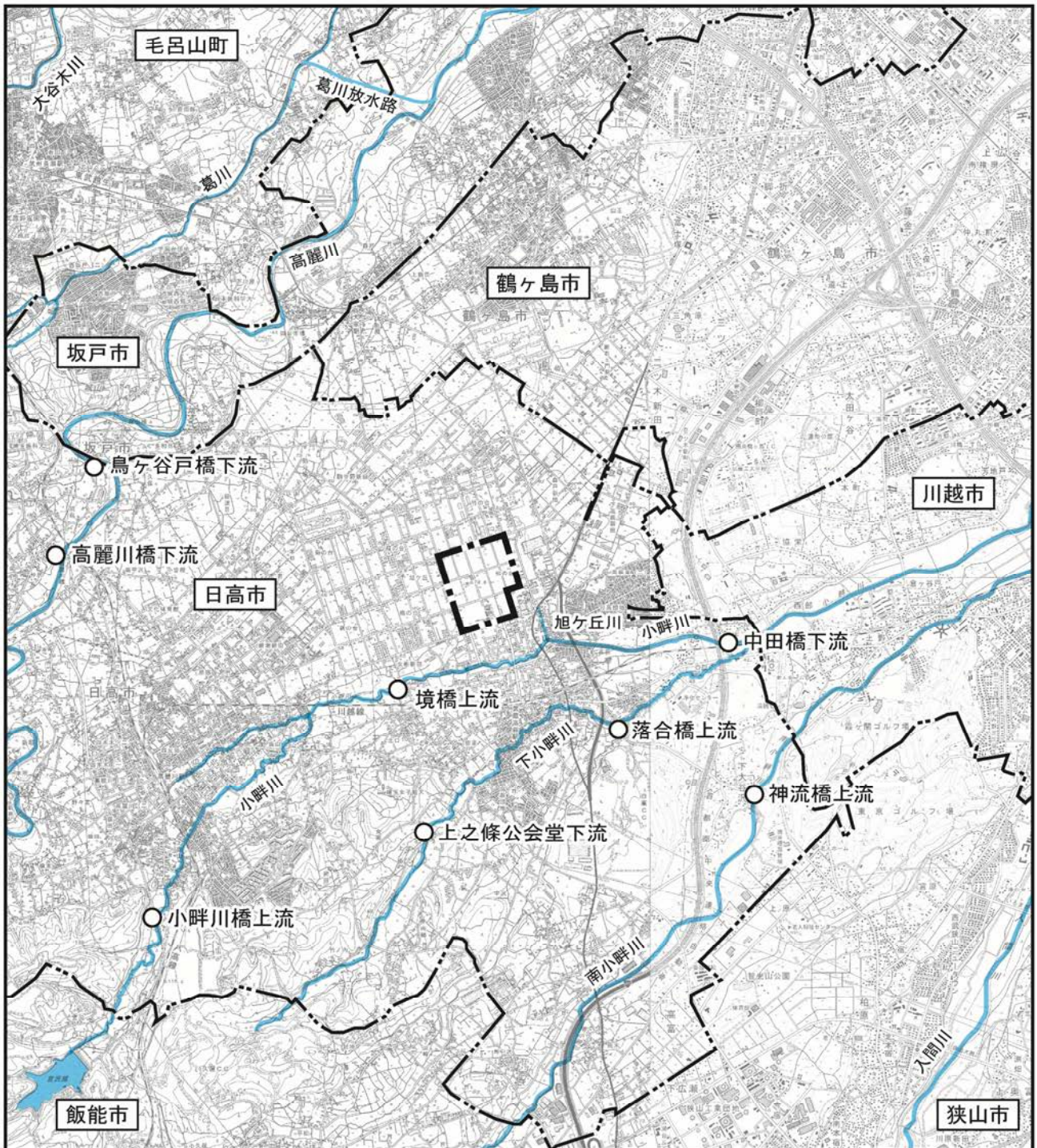
表 3.2-14(4) 水質測量結果（濁水期：平成 31 年 1 月 29 日）

調査地点 項目	下小畔川	第 2 小畔川	南小畔川	環境基準	
	上之條公会堂 下流 100m	落合橋上流	神流橋上流	A 類型 (生物 A)	B 類型 (生物 B)
pH	8.0	8.0	8.1	6.5 以上 8.5 以下	
BOD (mg/L)	2.5	1.4	0.9	2 以下	3 以下
COD (mg/L)	4.5	4.2	<u>5.6</u>	—	
SS (mg/L)	10	3	1	25 以下	
DO (mg/L)	13.4	13.7	11.6	7.5 以上	5 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	1300	2800	2400	1,000 以下	5,000 以下
全亜鉛 (mg/L)	0.027	0.007	0.011	0.03 以下	
ノニフェノール (mg/L)	—	—	<0.00006	0.001 以下	0.002 以下
糞便性大腸菌群数 (CFU/100mL)	380	110	<u>510</u>	—	

注 1) 下線は、環境基準または水浴判定基準に適合していないことを示す。

注 2) 糞便性大腸菌群の基準については、「水浴場水質判定基準（環境省）」の「水質 A」を示す。

出典：「平成 30 年度日高市の河川水質・水生生物分析調査結果」（日高市ホームページ）



凡 例

- 計画区域
- 市町界
- 河 川
- 湖 沼
- 水質調査地点

出典：「平成30年度日高市の河川水質・水生生物分析調査結果」（日高市ホームページ）

図3.2-4 水質調査地点位置図



## ②地下水

関係市町における令和2年度の地下水の調査結果は、表3.2-15に示すとおりである。

関係市町では9地点で概況調査が行われているが、川越市の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素において1地点のみ基準を超過している。

表 3.2-15 地下水の概況調査結果

区分	調査地点数	鉛		トリクロロエチレン		テトラクロロエチレン		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		ふっ素		ほう素	
		検出地点	基準超過地点	検出地点	基準超過地点	検出地点	基準超過地点	検出地点	基準超過地点	検出地点	基準超過地点	検出地点	基準超過地点
西部地域	日高市	1	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—
	川越市	3	—	—	—	—	—	3	1	2	—	3	—
	飯能市	4	—	—	—	—	—	4	—	4	—	—	—
東松山地域	坂戸市	1	—	—	—	1	—	1	—	1	—	—	—
地下水環境基準値 (mg/L)		0.01 以下		0.01 以下		0.01 以下		10 以下		0.8 以下		1 以下	

注) 「—」は検出されなかったことを示す。

出典：「令和2年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」(埼玉県ホームページ)

## ③苦情の件数

令和元年度における水質汚濁に関する苦情件数は、日高市で3件、鶴ヶ島市で6件、坂戸市で2件、川越市で2件、飯能市で6件、毛呂山町で3件となっている(表3.2-10参照)。

### (2)底質

計画区域周辺では、底質の調査は行われていない。

### 3.2.3 土壌及び地盤の状況

#### (1) 土壌

##### ① 農用地における土壌汚染

埼玉県では、農用地の土壌汚染状況を把握するため、銅、砒素、カドミウムについての調査を昭和46年から5年に一度行っている。

昭和54年から令和2年までの調査結果は、表3.2-16に示すとおりであり、いずれの項目も環境基準を達成している。

表 3.2-16 農用地の土壌汚染状況調査の分析測定結果

単位：mg/kg

調査年度		調査地点の分析測定結果											
		土壌中（乾物）								玄米中（現物）			
		銅				砒素				カドミウム			
		最高	最低	平均	調査地点	最高	最低	平均	調査地点	最高	最低	平均	調査地点
一巡目	(S.54~57) 全県	32.3	0.1	11.3	90	11.8	tr	1.9	90	0.37	0.02	0.11	46
二巡目	(S.59~62) 全県	23.6	0.1	9	90	5.3	tr	1.4	90	0.3	nd	0.09	48
三巡目	(H.元~4) 全県	21.6	0.3	9.3	90	8	tr	1.8	90	0.38	tr	0.09	46
四巡目	(H.6~9) 全県	28.7	0.2	9.4	87	13.1	tr	2.2	87	0.3	tr	0.06	31
五巡目	(H.11~14) 全県	30.8	0.1	11.2	180	11.3	0.1	2	180	0.28	tr	0.09	50
六巡目	(H.16~19) 全県	21.5	tr	8.9	180	6.4	0.1	1.7	180	0.31	tr	0.06	47
七巡目	(H.21~24) 全県	21.7	tr	9.5	165	7.9	tr	1.7	165	0.22	tr	0.03	43
八巡目	(H.26~29) 全県	25.5	0.1	9.1	118	10.5	0.2	2.5	118	0.29	tr	0.05	31
九巡目	(R.元~2) 全県	24.4	0.7	9.9	57	10.1	0.4	2.8	57	0.22	0.02	0.08	17
環境基準		土壌 1kg につき 125mg 未満				土壌 1kg につき 15mg 未満				米 1kg につき 0.4mg 以下			

注1) nd：検出限界以下、tr：極微量検出を示す。

注2) 県農業技術研究センターの分析測定結果で、昭和58年、63年、平成5年、10年、15年、20年、25年、30年は各調査巡の取りまとめ年である。

出典：「令和3年版埼玉県環境白書 資料編」（令和3年12月、埼玉県環境部環境政策課）

## ②ダイオキシン類

埼玉県では、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく土壌の常時監視測定（発生源周辺状況把握調査及び一般環境把握調査）を行っている。

令和2年度の計画区域周辺における、土壌中のダイオキシン類の常時監視結果は表3.2-17に示すとおりであり、いずれもダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準を達成している。

表 3.2-17 土壌中のダイオキシン類の常時監視結果（令和2年度）

単位：pg-TEQ/g

調査区分	調査地点		調査結果	環境基準
一般環境把握調査	坂戸市	石井	8.7	1,000 以下
		新堀	6.9	
	川越市	伊勢崎町	0.097	
		小仙波町	0.0020	
	飯能市	双柳	5.4	
		飯能	1.9	
		岩沢	1.1	
		下直竹	3.3	
		吾野	0.40	

出典：「令和2年度土壌常時監視結果 ダイオキシン類」（埼玉県ホームページ）

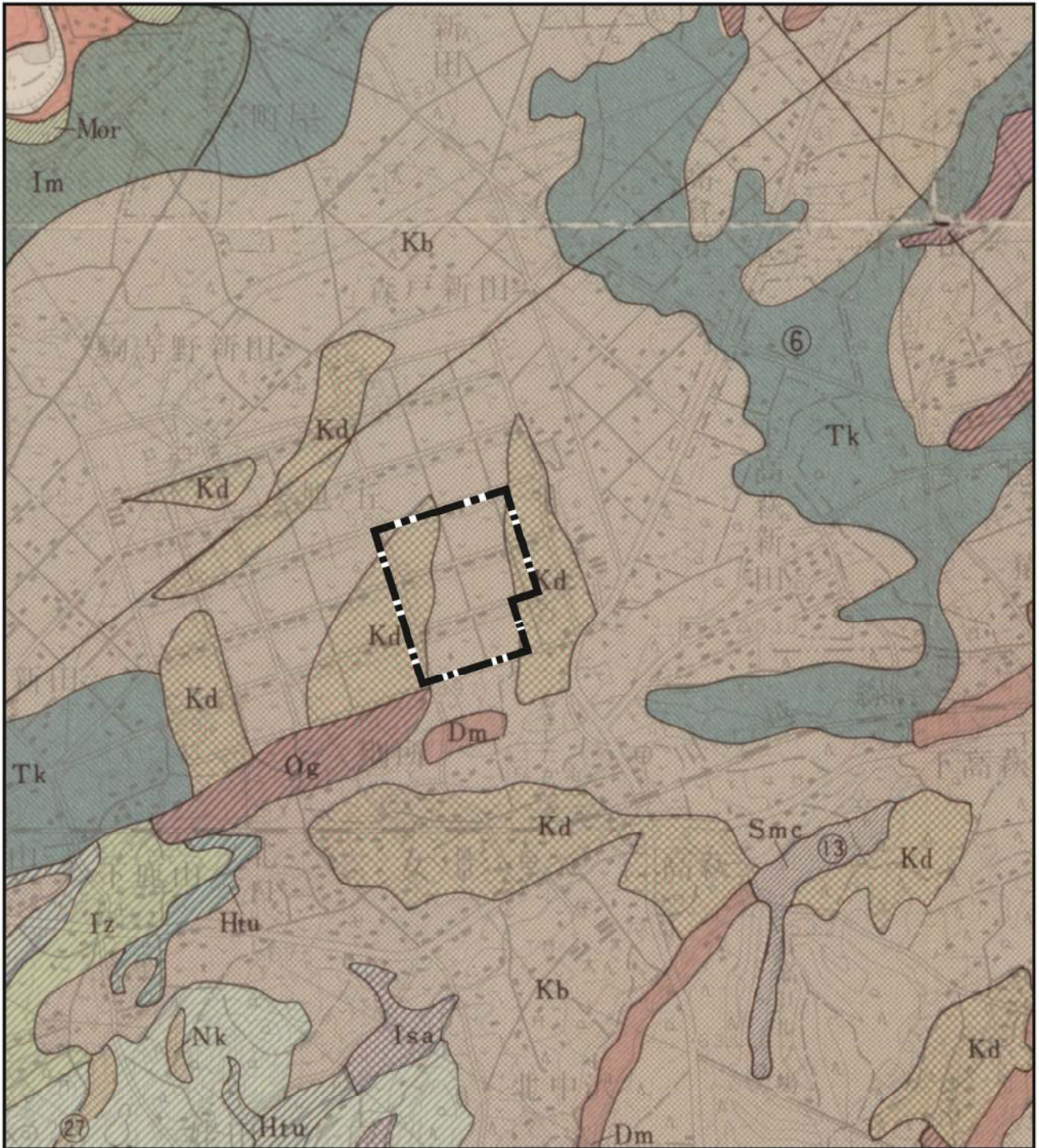
## ③土壌の分布状況

計画区域周辺の土壌の分布状況は、図3.2-5に示すとおりである。

計画区域一帯は、淡色黒ボク土壌（児玉統）、黒ボク土壌（冑山統）が分布している。

## ④苦情の状況

令和元年度における土壌汚染に関する苦情はなかった。（表3.2-10参照）。



**凡 例**

- |  |  |   |   |  |
|--|--|---|---|--|
| <p>----- 計画区域</p> <p>細粒グライ土壤<br/>[Isa] 伊佐沼統</p> <p>多湿黒ボク土壤<br/>[Dm] 道目木統</p> | <p>褐色低地土壤<br/>[Tg] 勅使河原統</p> <p>黒ボク土壤<br/>[Kb] 冑山統</p> <p>[Tk] 高倉統</p> <p>[Im] 今福統</p> | <p>乾性褐色森林土壤<br/>[My] 宮沢統</p> <p>厚層黒ボク土壤<br/>[Og] 太田ヶ谷統</p> <p>[Ksa] 笠幡統</p> | <p>黒ボクグライ土壤<br/>[Smc] 新町統</p> <p>褐色森林土壤<br/>[Iz] 石板統</p> <p>[Nk] 中鹿山統</p> | <p>淡色黒ボク土壤<br/>[Kd] 児玉統</p> <p>細粒灰色低地土壤<br/>[Htu] 平塚統</p> <p>[Mor] 森戸統</p> |
|--|--|---|---|--|

出典：「1/50,000土地分類基本調査（土壤図）川越」（昭和46年8月、埼玉県）

図3.2-5 土壤図

0 250 500 1,000m





## (2) 地盤

### ①地盤沈下の状況

計画区域及び周辺地域における平成30年～令和4年の地盤標高の変動量の測量結果は、表3.2-18に、位置は図3.2-6に示すとおりである。

関係市町における平成30年～令和4年までの地盤標高の変動量は-9.0～-1.8mmの範囲で沈下している。

表 3.2-18 地盤標高の変動量の推移

市	所在地		調査開始 年月日 (昭和)	各年別変動量(mm)					平成27年 から平成 31年まで の変動量	調査開始 年からの 変動量 (mm)	平成 31.1.1 の真高 (T.P.) (m)
	基標 番号	目標		平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年			
日 高 市	54-28	下鹿山 26	55.1.1	-0.4	-5.2	+3.9	+3.7	-10.3	-8.3	-66.8	71.5140
	54-29	楡木 21-1	55.1.1	+0.9	-5.2	+7.0	-1.8	-2.7	-1.8	-40.4	87.3029
	56-15	南平沢 335	57.1.1	+0.6	-6.6	+3.8	+2.8	-9.6	-9.0	-40.5	73.1595
鶴 ヶ 島 市	54-36	五味ヶ谷 251	56.1.1	+0.5	-4.5	+3.5	-1.7	-0.5	-2.7	-63.1	29.4027

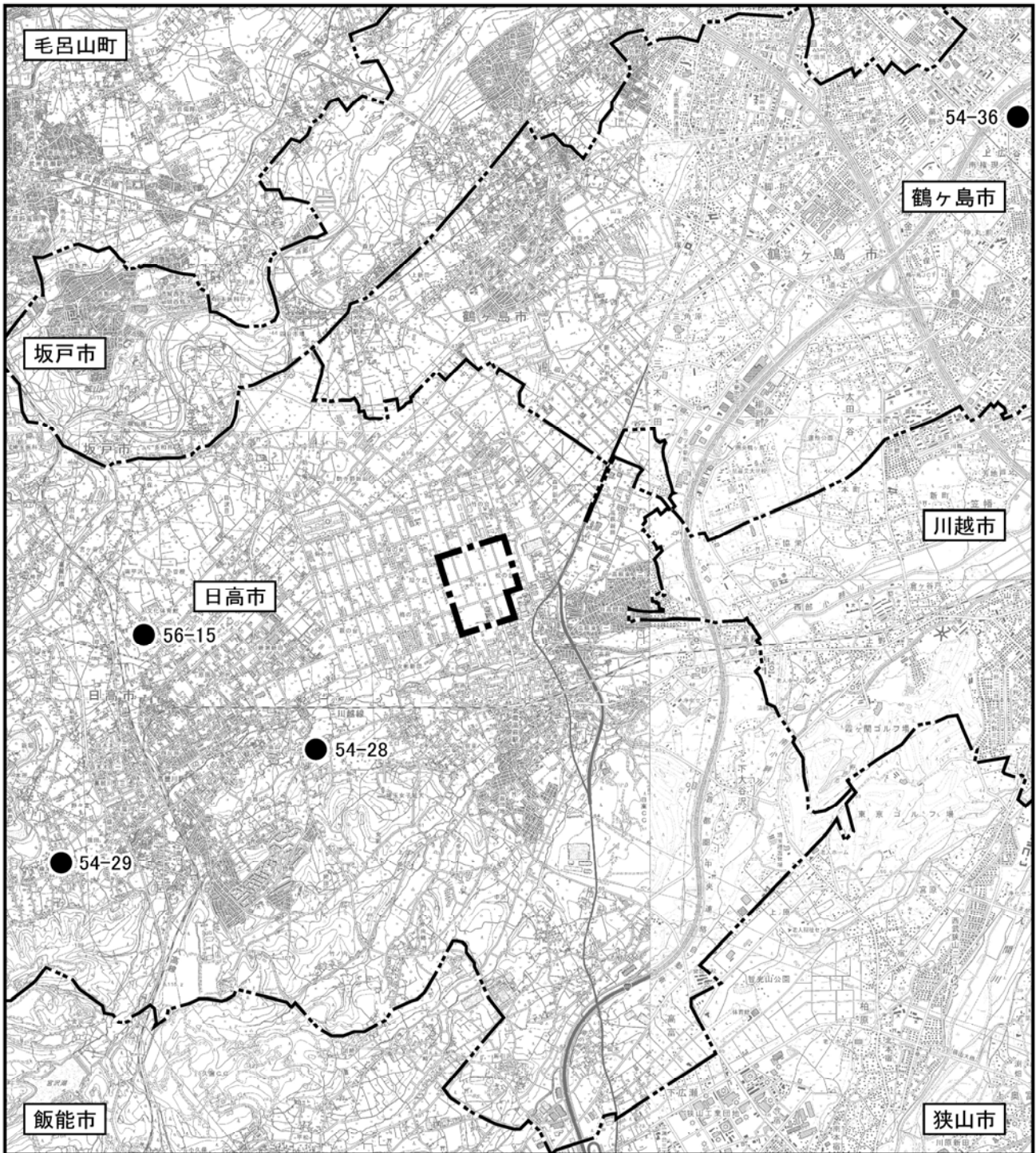
注1) 各年1月1日の値を前年値と比較した。

注2) 表中の基標番号は図3.2-6中の番号と対応している。

出典：「水準測量成果表 令和3年度」(埼玉県ホームページ)

### ②苦情の状況

令和元年度における地盤沈下に関する苦情は無かった。(表3.2-10参照)。

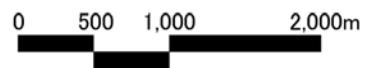


**凡 例**

- 計画区域
- .-.- 市町界
- 水準点

注) 図中の番号は表3.2-18の基標番号と対応している。  
 出典: 「水準測量成果表 令和3年度」(埼玉県ホームページ)

図3.2-6 地盤標高の変動量調査地点位置図



### 3.2.4 地形及び地質の状況

#### (1) 地形の状況

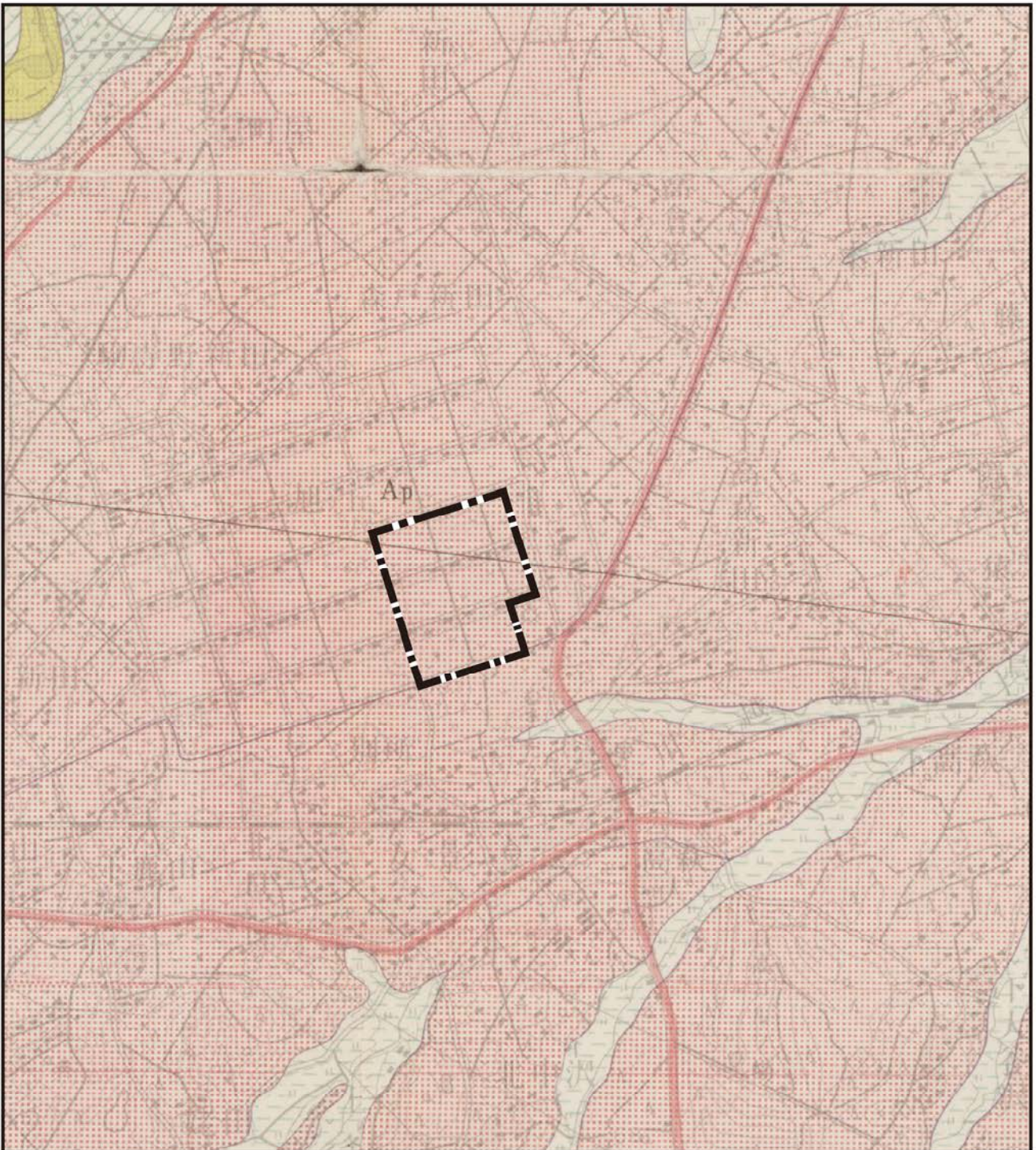
計画区域及び周辺地域の地形分類は、図 3.2-7 に示すとおりである。

計画区域一帯は火山灰台地であり、計画区域南東の小畔川及び下小畔川に沿って、谷底平野となっている。





#### (2) 地質の状況

計画区域及び周辺地域の表層地質は、図 3.2-8 に示すとおりである。

計画区域一帯は火山性堆積物であるロームで構成されており、計画区域南東の小畔川及び下小畔川に沿って、泥となっている。



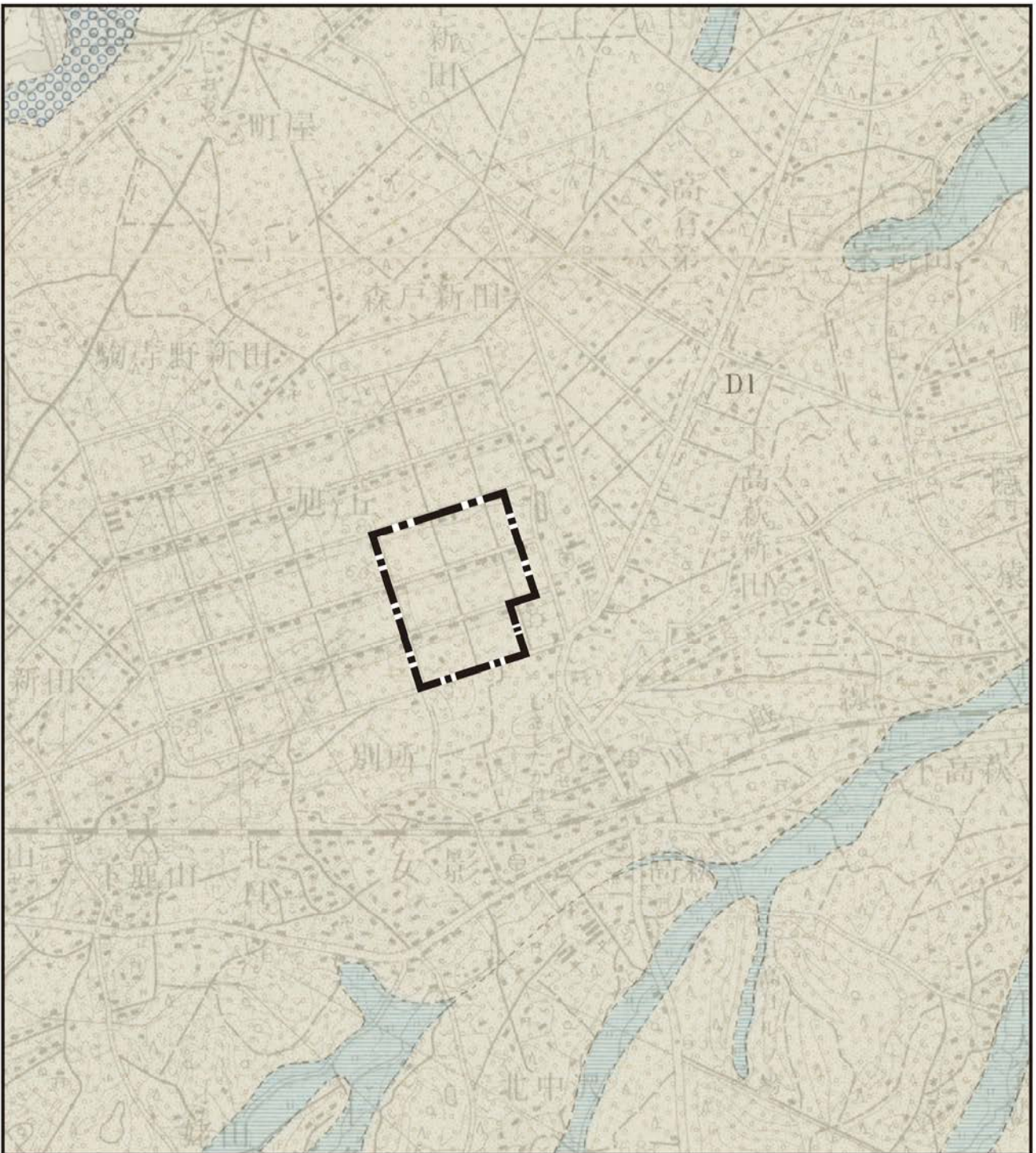
**凡 例**

- 計画区域
- 台地・低地
  -  火山灰台地
  -  河原
-  谷底平野
-  扇状地

出典：「1/50,000土地分類基本調査（地形分類図）川越」（昭和46年8月、埼玉県）

図3.2-7 地形分類図





**凡 例**

—— 計画区域

未固堆積物質

火山性堆積物

泥

口一ム

礫

出典：「1/50,000土地分類基本調査（表層地質図）川越」（昭和46年8月、埼玉県）

図3.2-8 表層地質図



### 3.2.5 動物の生息、植物の生育、植生及び生態系の状況

#### (1) 動物

##### ① 動物相の状況

計画区域周辺における動物の確認記録は、表3.2-19に示すとおりである。

計画区域が位置する日高市では、哺乳類6種、鳥類44種、両生類4種、魚類15種、昆虫類101種が記録されている。

表 3.2-19 計画区域周辺における動物の確認記録

分類	市	主な確認種
哺乳類	日高市	イタチ、タヌキ、ノウサギ、ハクビシンなど6種
	鶴ヶ島市	イタチ、ニッコウムササビの2種
	坂戸市	ノウサギの1種
	川越市	アブラコウモリ、ホンドハツカネズミなど8種
	飯能市	ホンドタヌキ、ムササビ、ニホンリスなど9種
	毛呂山町	ムササビ、イノシシ、ニホンリスの3種
鳥類	日高市	カモ科、サギ科、シジュウカラ科など44種
	鶴ヶ島市	カッコウ科、サギ科、アトリ科など113種
	坂戸市	カモ科、メチドリ科、ヤツガシラ科など11種
	川越市	カモ科、タカ科、ハト科など21種
	飯能市	サギ科、ツグミ科、ヒタキ科など55種
	毛呂山町	カモ科、ツグミ科、タカ科の3種
爬虫類	日高市	—
	鶴ヶ島市	—
	坂戸市	シロマダラの1種
	川越市	アオダイショウ、アカミミガメ、イシガメなど10種
	飯能市	クサガメ、シマヘビ、マムシなど5種
	毛呂山町	—
両生類	日高市	アマガエル、カジカガエル、クサガメなど4種
	鶴ヶ島市	—
	坂戸市	—
	川越市	カジカガエル、アズマヒキガエル、アマガエルなど6種
	飯能市	カジカガエル、アズマヒキガエル、ニホンアカガエルなど7種
	毛呂山町	—
魚類	日高市	アブラハヤ、ウグイ、アユ、オイカワなど15種
	鶴ヶ島市	ヒイラギ、カマツカ、メダカの3種
	坂戸市	アブラハヤ、ウグイ、アユ、オイカワなど30種
	川越市	アブラハヤ、ウグイ、アユ、オイカワなど26種
	飯能市	アブラハヤ、ウグイ、ニジマス、ニッコウイワナなど29種
	毛呂山町	アブラハヤ、ウグイ、アユ、オイカワなど19種
昆虫類	日高市	セミ科、カミキリムシ科、シジミチョウ科など101種
	鶴ヶ島市	セミ科、シジミチョウ科、イトトンボ科など9種
	坂戸市	セミ科、シジミチョウ科、タテハチョウ科など8種
	川越市	セミ科、シジミチョウ科、カワトンボ科など22種
	飯能市	セミ科、カミキリムシ科、シジミチョウ科など142種
	毛呂山町	カミキリムシ科、シジミチョウ科、カワトンボ科など47種

注) 表中の「—」は記録なしを示す。

出典：「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター)

「第5回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局生物多様性センター、自然環境調査 Web-GIS)

## ②貴重な動物の分布状況

貴重な動物種の選定基準は、表3.2-20に示すとおりである。

「第5回自然環境保全基礎調査」及び「埼玉県生物多様性データベース 埼玉県動植物リスト」において、関係市町で確認された種のうち表3.2-20に該当する種は、表3.2-21(1)～(3)に示すとおりである。

表 3.2-20 貴重な動物種の選定基準

No.	出典	基準
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月、法律第 214 号)	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月、法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020」 (令和 2 年 3 月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」 (平成 30 年 3 月、埼玉県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 NT1：準絶滅危惧Ⅰ型 NT2：準絶滅危惧Ⅱ型 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 RT：地域別危惧
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成 12 年 3 月、条例第 11 号)	希少：県内希少野生動植物種指定

表 3.2-21(1) 計画区域周辺で確認された貴重な動物種

分類	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
哺乳類	ムササビ				NT1	
鳥類	ヒメアマツバメ				LP	
	カッコウ				NT2	
	ツツドリ				LP	
	ホトトギス				RT	
	オシドリ			DD	EN	
	トモエガモ			VU	VU	
	ヒシクイ			VU	CR	
	マガン			NT	CR	
	ヤマドリ				VU	
	アオゲラ				RT	
	アマサギ				LP	
	コサギ				NT2	
	ササゴイ				EN	
	チュウサギ			NT	VU	
	ヨシゴイ			NT	VU	
	ベニマシコ				RT	
	ウグイス				RT	
	エゾムシクイ				NT2	
	オオヨシキリ				NT2	
	センダイムシクイ				NT2	
	メボソムシクイ				NT2	
	ヤブサメ				NT2	
	サンコウチョウ				EN	
	ホシガラス				NT2	
	サンショウクイ			VU	EN	
	コガラ				NT2	
	ヒガラ				RT	
	ヤマガラ				RT	
	アカハラ				NT2	
	コルリ				NT1	
	ルリビタキ				RT	
	オオルリ				RT	
	キビタキ				RT	
	コサメビタキ				EN	
	アオジ				DD	
	クロジ				RT	
	コジュリン			VU	VU	
	シマアオジ		国内	CR		
	ホオアカ				CR	
	ミヤマホオジロ				NT1	
コムクドリ				DD		
チゴモズ			CR	CR		
オオタカ			NT	VU		
サシバ			VU	CR		
ツミ				NT2		
トビ				DD		
ノスリ				NT2		
ハイタカ			NT	DD		

注 1) 選定基準の番号は、表 3.2-20 に対応している。

注 2) 種の並び順は「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター) に準拠した。

出典:「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター)

「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局生物多様性センター、自然環境調査 Web-GIS)



表 3.2-21(2) 計画区域周辺で確認された貴重な動物種

分類	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
鳥類	チョウゲンボウ				NT2	
	ハヤブサ		国内	VU	VU	
	タシギ				RT	
	ヤマシギ				VU	
	イカルチドリ				NT1	
	タゲリ				NT2	
	バン				NT2	
	アオバト				RT	
	シラコバト	国天		EN	EN	
	アオバズク				NT2	
	フクロウ				RT	
	カワセミ				RT	
	コアホウドリ			EN		
	ヨタカ			NT	VU	
両生類	カジカガエル				NT1	
	シュレーゲルアオガエル				NT2	
	アズマヒキガエル				NT1	
	トウキョウダルマガエル			NT	NT1	
	ニホンアカガエル				VU	
	トウキョウサンショウウオ			VU		
	ヤマアカガエル				NT2	
魚類	ニッコウイワナ			DD	VU	
	ヤマメ				VU	
	キンブナ			VU	VU	
	ギバチ			VU		
	ゲンゴロウブナ			EN		
	ドジョウ			NT		
	ワカサギ				NT1	
	ハス			VU		
	ワタカ			CR		
	スゴモロコ			VU		
	ゼゼラ			VU		
	ジュズカケハゼ			NT		
	ホトケドジョウ			EN	CR	
	ツチフキ			EN		

注 1) 選定基準の番号は、表 3.2-20 に対応している。

注 2) 種の並び順は「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター) に準拠した。

出典：「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター)

「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局生物多様性センター、自然環境調査 Web-GIS)

表 3.2-21(3) 計画区域周辺で確認された貴重な動物種

分類	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
昆虫類	チッチゼミ				NT1	
	ハルゼミ				NT1	
	ヤママユ				RT	
	ハネビロエゾトンボ			VU	CR	
	アオハダトンボ			NT	VU	
	ヒメクロサナエ				NT1	
	ヤマサナエ				NT2	
	ハッチョウトンボ				EX	
	ハラビロトンボ				NT2	
	ヒメアカネ				VU	
	ムカシトンボ				NT1	
	サラサヤンマ				NT2	
	アオサナエ				NT1	
	アオヤンマ			NT	VU	
	クロサナエ				NT1	
	コシボソヤンマ				NT1	
	ヒメサナエ				NT1	
	マルタンヤンマ				NT2	
	ホンサナエ				VU	
	キイトトンボ				NT2	
	ネアカヨシヤンマ			NT		
	モートンイトトンボ			NT	EN	
	オオミドリシジミ				NT1	
	ウスイロオナガシジミ				VU	
	ウラギンスジヒョウモン			VU	VU	
	コツバメ				NT2	
	ミヤマセセリ				NT1	
	クモガタヒョウモン				NT2	
	オオウラギンスジヒョウモン				NT2	
	オオアメンボ				NT2	
	ナベブタムシ				VU	
	アカエゾゼミ				NT1	
	タガメ			VU	CR	
ミズスマシ			VU	CR		

注 1) 選定基準の番号は、表 3.2-20 に対応している。

注 2) 種の並び順は「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター) に準拠した。

出典:「埼玉県生物多様性データベース」(埼玉県環境部環境科学国際センター)

「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局生物多様性センター、自然環境調査 Web-GIS)

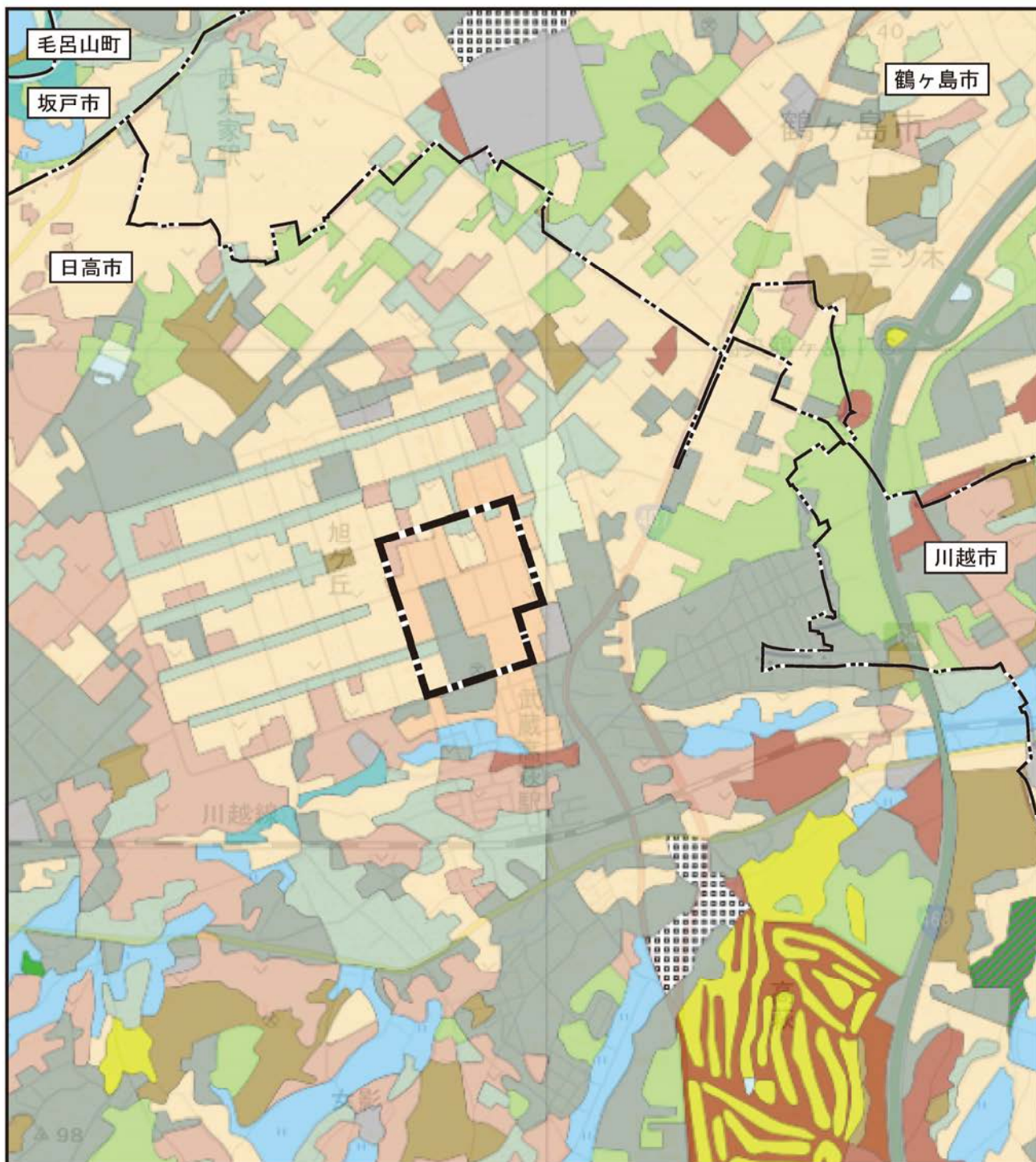
## (2) 植物

### ① 植生の状況

計画区域周辺の植生図は、図3.2-9に示すとおりである。

日高市は、秩父山地の東に位置し、山地から東側に連なる山麓地、丘陵地、台地により主な地形が形成されている。樹林地は、スギ、ヒノキ、サワラなどの針葉樹林で構成されており、計画区域が該当する台地においてはクヌギ、コナラなどの雑木林が所々みられる。

計画区域は、主に放棄畑雑草群落、市街地、畑雑草群落で構成されている。比較的まとまった樹林としては計画区域東側にクヌギーコナラ群落がみられるが、それ以外にまとまった樹林はみられない。



**凡 例**

- |              |                |            |           |
|--------------|----------------|------------|-----------|
| ■■■■ 計画区域    | ■ クヌギーコナラ群落    | ■ 放棄畑雑草群落  | ■ 緑の多い住宅地 |
| ---- 市町界     | ■ アカマツ群落       | ■ 果樹園      | ■ 工場地帯    |
| ■ アラカシ群落     | ■ スギ・ヒノキ・サワラ植林 | ■ 畑雑草群落    | ■ 造成地     |
| ■ ケヤキ・シラカシ群落 | ■ アカマツ植林       | ■ 水田雑草群落   | ■ 開放水域    |
| ■ クリーコナラ群落   | ■ ゴルフ場・芝地      | ■ 放棄水田雑草群落 |           |
| ■ 路傍・空地雑草群落  | ■ 市街地          |            |           |

出典：「第6回・第7回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センター、自然環境調査Web-GIS）

図3.2-9 植生図

0 250 500 1,000m



## ②貴重な植物の分布状態

貴重な植物種の選定基準は、表3.2-22に示すとおりである。

「1998年版埼玉県植物誌」に記載されている、関係市町で確認された種のうち表3.2-22に該当する種は表3.2-23(1)～(2)に示すとおりであり、関係市町で確認された植物は38科73種であった。そのうち「環境省レッドリスト2020」に該当する植物は16種であり、ミズニラやサンショウモ、アキノハハコグサなどがあげられる。

表 3.2-22 貴重な植物種の選定基準

No.	出典	基準
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月、法律第 214 号)	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月、法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020」 (令和 2 年 3 月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」 (平成 24 年 3 月、埼玉県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CE：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成 12 年 3 月、条例第 11 号)	希少：県内希少野生動植物種指定

表 3.2-23(1) 計画区域周辺で確認された貴重な植物種

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
イワヒバ科	カタヒバ				NT	
ミズニラ科	ミズニラ			NT	VU	
ウラジロ科	ウラジロ				NT	
ホングウシダ科	ホラシノブ				VU	
シシラン科	シシラン				NT	
オシダ科	サイゴクイノデ				VU	
サンショウモ科	サンショウモ			VU	EN	
ブナ科	アカガシ				NT	
タデ科	ナガバノウナギツカミ			NT	EX	
	コギシギシ			VU	VU	
クスノキ科	ニッケイ			NT		
ドクダミ科	ハンゲショウ				VU	
ウマノスズクサ科	カンアオイ				NT	
アブラナ科	コイヌガラシ			NT	NT	
	ハタザオ				VU	
ユキノシタ科	タコノアシ			NT	VU	
バラ科	リンボク				EN	
	カワラサイコ				VU	
マメ科	レンリソウ				EN	
ミカン科	フユザンショウ				NT	
クロウメモドキ科	ミヤマクマヤナギ				VU	
ミソハギ科	ヒメミソハギ				NT	
	ミズマツバ			VU	VU	
アリノトウグサ科	フサモ				NT	
サクラソウ科	ヌマトラノオ				NT	
リンドウ科	センブリ				VU	
ガガイモ科	タチガシワ				NT	
アカネ科	アリドオシ				VU	
	キクムグラ				NT	
シソ科	オカタツナミソウ				NT	
	ヒメナミキ				EN	
ゴマノハグサ科	アブノメ				NT	
	オオアブノメ			VU	EN	
	シソクサ				EN	
	キクモ				NT	
	イヌノフグリ			VU	NT	
	カワヂシャ			NT	VU	
	ハグロソウ				NT	
スイカズラ科	ゴマギ				NT	
オミナエシ科	ツルカノコソウ				NT	
キク科	タウコギ				NT	
	キクタニギク			NT	NT	
	アキノハハコグサ			EN	CR	
	オグルマ				NT	
	カセンソウ				NT	
	オナモミ			VU	VU	
オモダカ科	ヘラオモダカ				NT	
	アギナシ			NT	CR	
	ウリカワ				NT	

注 1) 選定基準の番号は、表 3.2-22 に対応する。

注 2) 種の並び順は「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成 24 年 3 月、埼玉県)に準拠した。

出典:「1998 年版 埼玉県植物誌」(平成 10 年 3 月、埼玉県教育委員会)

表 3.2-23(2) 計画区域周辺で確認された貴重な植物種

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
トチカガミ科	クロモ				EN	
	ミズオオバコ			VU	VU	
	セキショウモ				NT	
ヒルムシロ科	エビモ				NT	
	ヒルムシロ				NT	
	ササバモ				NT	
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ				NT	
ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ				VU	
	ニッポンイヌノヒゲ				EN	
イネ科	セトガヤ				NT	
	カリマタガヤ				VU	
	ムツオレグサ				NT	
	アズマガヤ				NT	
	ウキシバ				VU	
サトイモ科	ウラシマソウ				NT	
カヤツリグサ科	ヤマアゼスゲ				NT	
	ヒメゴウソ				NT	
	シロガヤツリ				VU	
	コアゼテンツキ				NT	
	ヒメホタルイ				VU	
	コマツカサススキ				EN	
	マツカサススキ				NT	
ラン科	ギンラン				VU	
	ササバギンラン				NT	
	クモキリソウ				NT	
38 科	74 種	0	0	16	73	0

注 1) 選定基準の番号は、表 3.2-22 に対応する。

注 2) 種の並び順は「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成 24 年 3 月、埼玉県)に準拠した。

出典：「1998 年版 埼玉県植物誌」(平成 10 年 3 月、埼玉県教育委員会)

### ③重要な植物群落、巨樹・巨木等の分布状況

関係市町における、国土交通省都市緑化データベースによる条例に基づく保存樹・保存樹林の指定状況は、表3.2-24に示すとおりであり、日高市は、国土交通省都市緑化データベースによる条例に基づく保存樹・保存樹林は指定されていない。

また、「第6回自然環境保全基礎調査」による計画区域周辺の巨樹・巨木の状況は表3.2-25に、分布状況は図3.2-10に示すとおりであり、計画区域から最も近い巨樹・巨木は、計画区域北西側約3kmに位置する「鹿の子木」である。

表 3.2-24 保存樹及び保存樹林の指定状況

市名	保存樹 (本)	保存樹林		生垣等	
		件数	面積(m <sup>2</sup> )	件数	延長(m)
日高市	—	—	—	—	—
鶴ヶ島市	3	0	0.00	0	0.00
坂戸市	387	30	200,792.00	59	5,618.70
川越市	220	130	458,110.54	0	0.00
飯能市	—	—	—	—	—
毛呂山町	3	1	13,099.00	0	0.00

注1) 数値は、平成29年3月31日現在の値である。

注2) 表中の「—」は該当なしを示す。

出典：「条例に基づく保存樹・保存樹林の指定状況」（国土交通省都市緑化データベース）

表 3.2-25 計画区域周辺の巨樹・巨木の状況

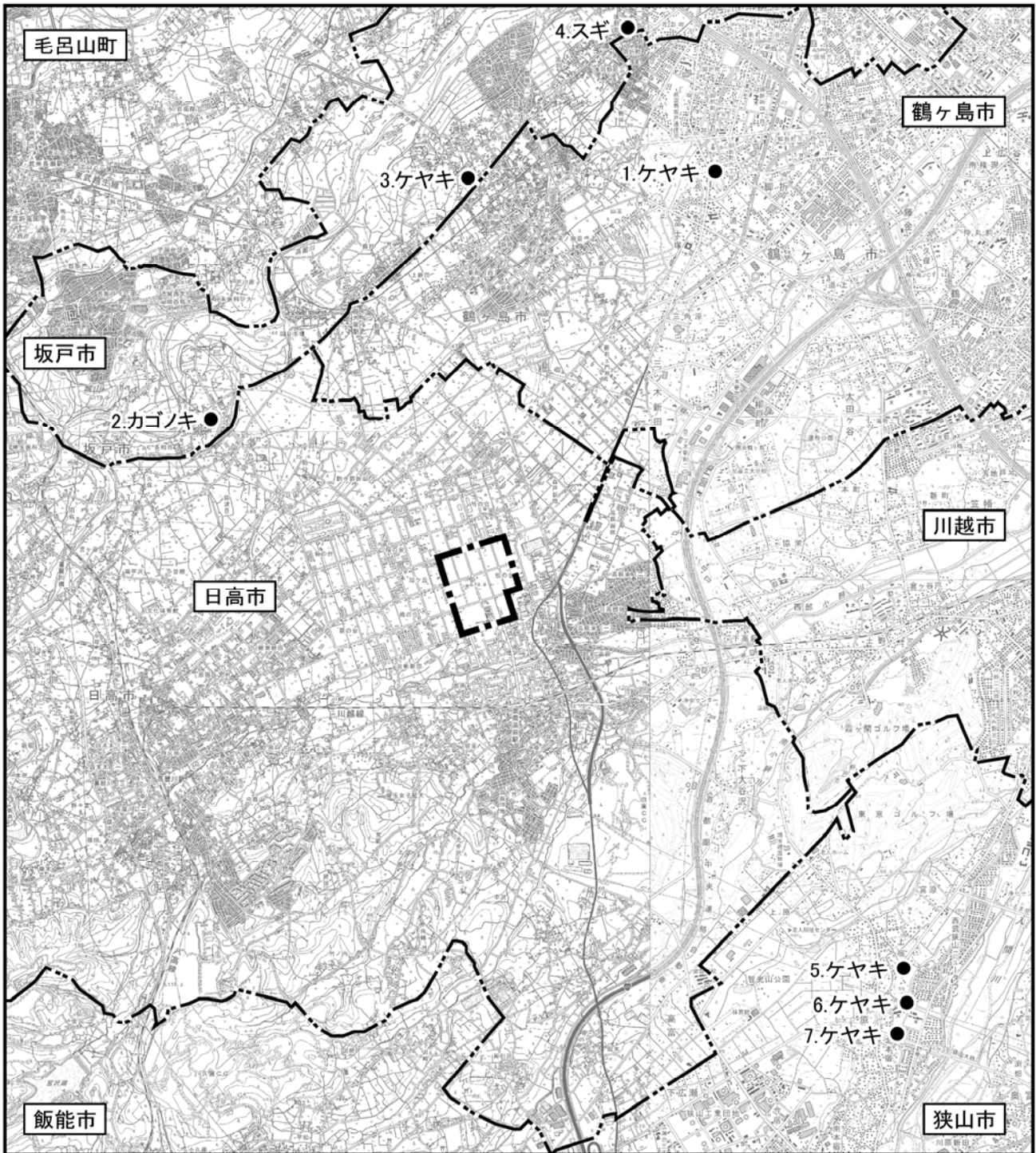
番号	市名	区分	樹種	幹周(cm)	樹高(m)
1	鶴ヶ島市	脚折の大ケヤキ	ケヤキ	749	17
2	坂戸市	鹿の子木	カゴノキ	470	15
3		鶴明神の大ケヤキ	ケヤキ	600	25
4		土屋神社の神木杉	スギ	850	28
5	狭山市	—	ケヤキ	320	20
6		—	ケヤキ	310	20
7		—	ケヤキ	340	22

注1) 表中の番号は図3.2-10の番号と対応している。

注2) 表中の「—」は該当なしを示す。

出典：「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センター、自然環境調査Web-GIS）



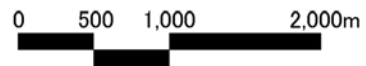


**凡 例**

- 計画区域
- - - 市町界
- 巨樹・巨木

注) 図中の番号は表3.2-25の番号と対応している。

図3.2-10 巨樹・巨木位置図



### (3) 生態系

計画区域は主に放棄畑雑草群落、市街地、畑雑草群落で構成されており、計画区域北側は鶴ヶ島市にかけて畑雑草群落が広がっている。また、計画区域東側にはクヌギーコナラ群落がみられ、計画区域南側は市街地、緑の多い住宅地がみられる。

計画区域周辺における代表的な基礎生産者は、畑雑草群落、クヌギーコナラ群落であることから、カッコウ、ウグイス、ハシボソガラスなど樹林環境でみられる鳥類、ノウサギやキツネなどの哺乳類、乾性草地環境で一般的にみられるトンボやバッタなどの昆虫類とこれらを餌とする爬虫類などの生息が考えられる。

### 3.2.6 景観、自然とのふれあいの場の状況

#### (1) 景観

##### ① 地域景観の状況

計画区域は、高麗川、小畔川に挟まれた台地に位置している。

計画区域周辺は主に畑地が分布し、計画区域東側には国道407号線、首都圏中央連絡自動車道が通り、その周辺には多くの住宅が密集して分布している。

##### ② 景観資源及び主要眺望地点の状況

計画区域周辺の景観資源の概要は表3.2-26に、主要眺望地点の概要は表3.2-27に、位置は図3.2-11に示すとおりである。

計画区域を眺望でき不特定多数の人に利用される主な地点は、計画区域南側の武蔵高萩駅や計画区域北側に近接している加藤牧場があげられるが、計画区域周辺は地形の起伏がなく平坦であることから、自然の地形を活かした眺望地点は少ない。

表 3.2-26 計画区域周辺の景観資源（自然的・歴史的景観資源）

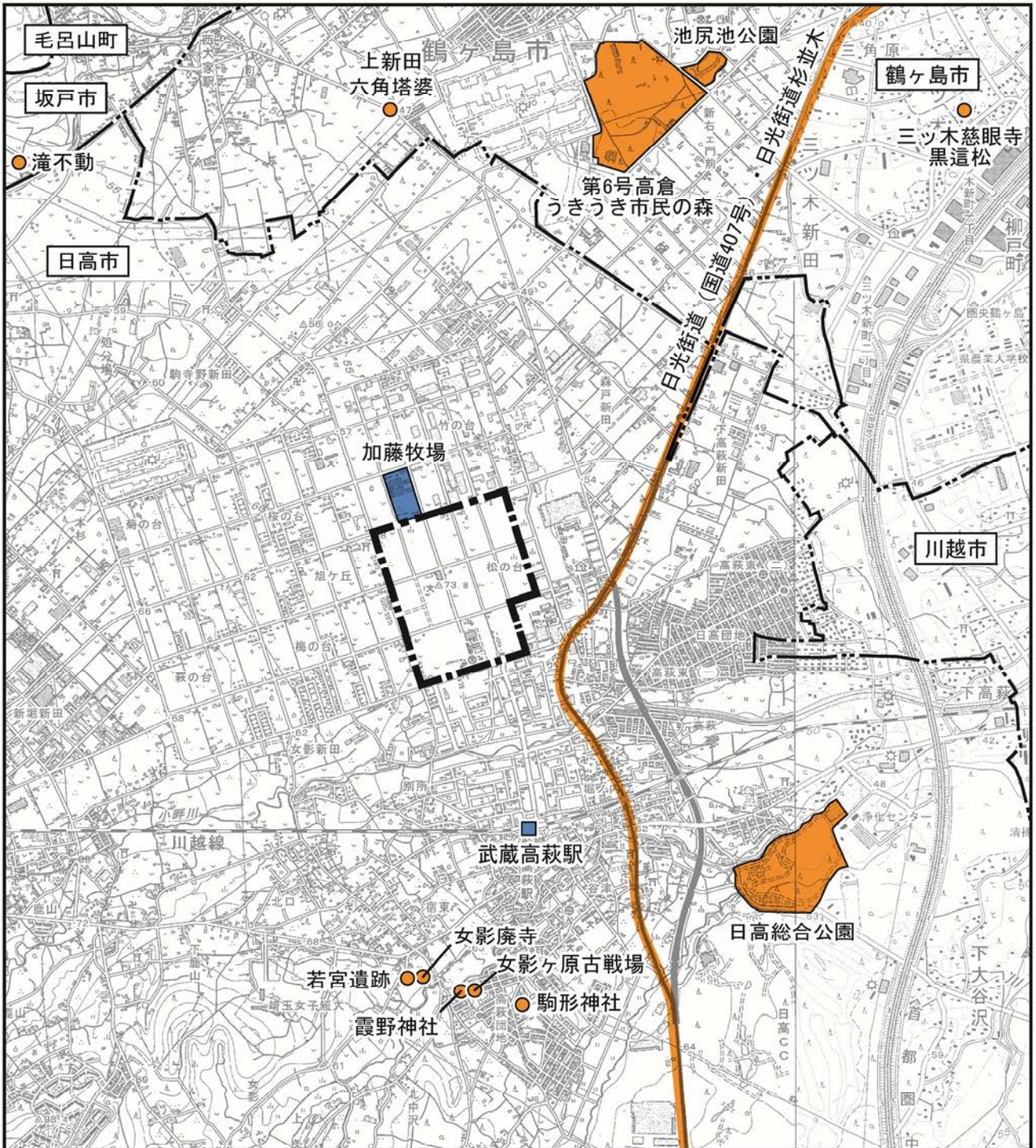
所在地	名称	概要
日高市	日光街道	江戸時代、八王子の千人同心が日光東照宮の火の番を勤めるため往来した道。
	霞野神社	明治43年に12社を合祀し造営。本殿は江戸時代末の作、懸額は市指定文化財。
	女影ヶ原古戦場	交通の要路であり、建武2年中先代の乱の合戦場と伝わる。県指定文化財。
	若宮遺跡	市指定文化財の古代寺院遺物が出土した遺跡。
	女影廃寺	若宮遺跡内に含まれる遺跡。
	駒形神社	市指定文化財の本殿がある、三柱を祀る社。
	日高総合公園	緑の多い公園で、園内の道路に沿って桜が植えられている。
鶴ヶ島市	日光街道杉並木	江戸時代、川越藩主松平伊豆守が植えたと言われている。
	上新田六角塔婆	寛文5年に造立された市内で最も古い庚甲塔。市指定文化財。
	三ッ木慈眼寺黒這松	境内の松は樹齢300年以上といわれる。市指定天然記念物。
	第6号高倉 うきうき市民の森	蛭が生息する小川が流れ、武蔵野の面影を残す良好な樹林地。 「おかねが井戸」といわれる井戸の形跡がある。
	池尻池公園	公園の中央に大きな池のある、緑豊かな公園。
坂戸市	滝不動	崖の中段に堂があり、明和4年の銘がある不動明王が安置されている。

出典：「日高市観光ガイドマップ 市指定文化財」（日高市ホームページ）  
 「埼玉県所在国指定・県指定等文化財一覧」（埼玉県ホームページ）  
 「つるがしま文化財マップ」（鶴ヶ島市ホームページ）  
 「市民の森」（鶴ヶ島市ホームページ）  
 「坂戸市観光ガイドマップ」（坂戸市ホームページ）  
 「日高・鶴ヶ島と入間川サイクリング」（川越市ホームページ）

表 3.2-27 計画区域周辺の主要眺望等

所在地	名称	概要
日高市	武蔵高萩駅	J R 東日本の川越線の駅。
	加藤牧場	乳牛約200頭を飼育している牧場。菜の花畑がある。

出典：「加藤牧場紹介」（加藤牧場ホームページ）



**凡例**

- 計画区域
- 市町界
- 景観資源
- 景観資源（街道等）
- 主要眺望点

出典：表3.2-26.27の出典を参照

図3.2-11 景観資源及び主要眺望点位置図



## (2) 自然とのふれあいの場

計画区域及び周辺地域の自然とのふれあいの場は表3.2-28(1),(2)に、分布図は図3.2-12に示すとおりである。

日高市は、「ウォーキング天国 ひだか」としてウォーキング事業に注力していることから、計画区域周辺には自然とふれあいながら歩くことのできるウォーキングコースが多数存在している。

計画区域最寄りのウォーキングコースは、旭ヶ丘健康コースや日光杉並木コースがある。

表 3.2-28(1) 計画区域周辺の主要な自然とのふれあいの場

市区名	内容	施設名
日高市	公園 スポーツ施設	日高総合公園
		高萩地区第3ちびっ子広場
		中北谷公園
		天神公園
		相原東公園
		相原中央公園
		相原西公園
		高根の池公園
		六ツ塚公園
		かどっこ公園
		富士見公園
		駒寺西公園
		駒寺公園
		たかはぎ上ノ台公園
		たかはぎ新宿公園
	ひまわり公園	
	ウォーキングコース	旭ヶ丘健康コース
		日光杉並木コース
		小畔川のんびりコース
		日高総合公園コース
		サイボク・智光山方面コース
		鎌倉街道里山コース
		田園・里山コース
		酒造・醤油蔵コース
	サイクリングコース	日高・鶴ヶ島と入間川サイクリング
	牧場	加藤牧場
	農園	ベリーズファーム（松浦農園）第1
		ぶどうの樹
		ロングヒルファーム
	桜の名所	武蔵高萩駅
		日高総合公園

出典：「スポーツ、公園」（日高市ホームページ）

「ひだか探訪お散歩マップ」（ひだかの旅 日高市観光協会 WEB）

「日高・鶴ヶ島と入間川サイクリング」（川越市ホームページ）

表 3.2-28(2) 計画区域周辺の主要な自然とのふれあいの場

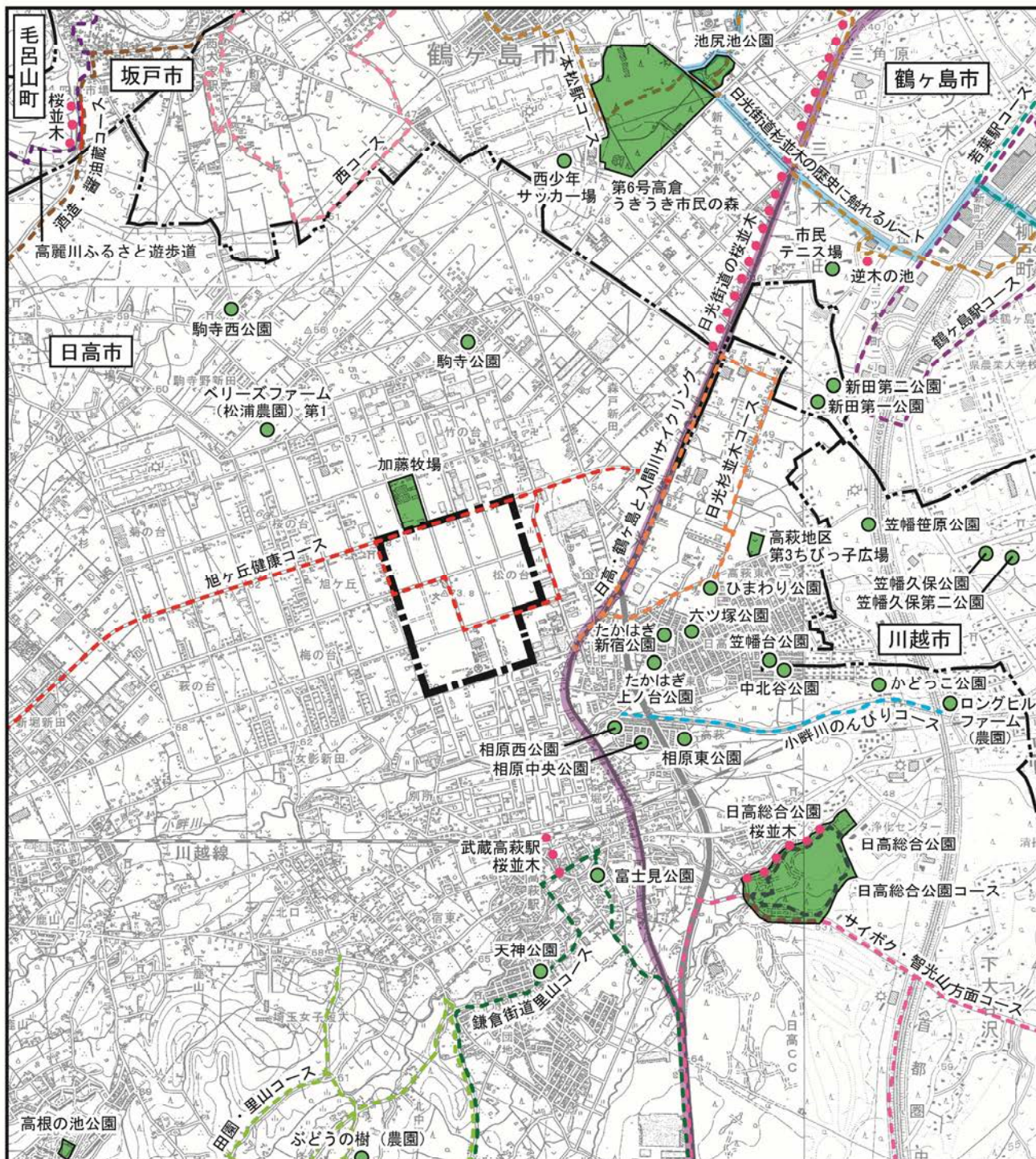
市区名	内 容	施設名
鶴ヶ島市	公園 スポーツ施設	池尻池公園
		第6号高倉うきうき市民の森
		西少年サッカー場
		市民テニス場
	ウォーキングコース	西コース
		一本松駅コース
		若葉駅コース
		鶴ヶ島駅コース
	サイクリングコース 桜の名所	日光街道杉並木の歴史に触れるルート
		日光街道の桜並木（鶴ヶ島中学校前）
逆木の池		
川越市	公園 スポーツ施設	笠幡笹原公園
		新田第一公園
		新田第二公園
		笠幡久保第二公園
		笠幡久保公園
		笠幡台公園
坂戸市	ウォーキングコース	高麗川ふるさと遊歩道
	桜の名所	高麗川ふるさと遊歩道の桜並木 (諏訪神社付近)

出典：「公園緑地 スポーツ施設のご案内 元気鶴ヶ島健康ウォーキングマップ」（鶴ヶ島ホームページ）

「つるがしま桜スポット」（鶴ヶ島ホームページ）

「地図情報」（川越市ホームページ）

「坂戸市観光ガイドマップ」（坂戸市ホームページ）



**凡 例**

- |      |      |      |           |
|------|------|------|-----------|
| ■■■  | 計画区域 | ---- | ウォーキングコース |
| ---- | 市町界  | ——   | サイクリングコース |
| ■●   | 公園等  | ●●●● | 桜の名所      |

出典：表3.2-28(1),(2)の出典を参照

図3.2-12 主要な自然とのふれあいの場の状況図

0 250 500 1,000m





### 3.2.7 文化財その他の生活環境の状況

#### (1) 指定文化財の状況

計画区域周辺の指定文化財は表 3.2-29 に、位置は図 3.2-13 に示すとおりである。

計画区域に最も近い文化財は、計画区域南側約 1.3km に位置する駒形神社本殿などの歴史的建造物や考古資料である。

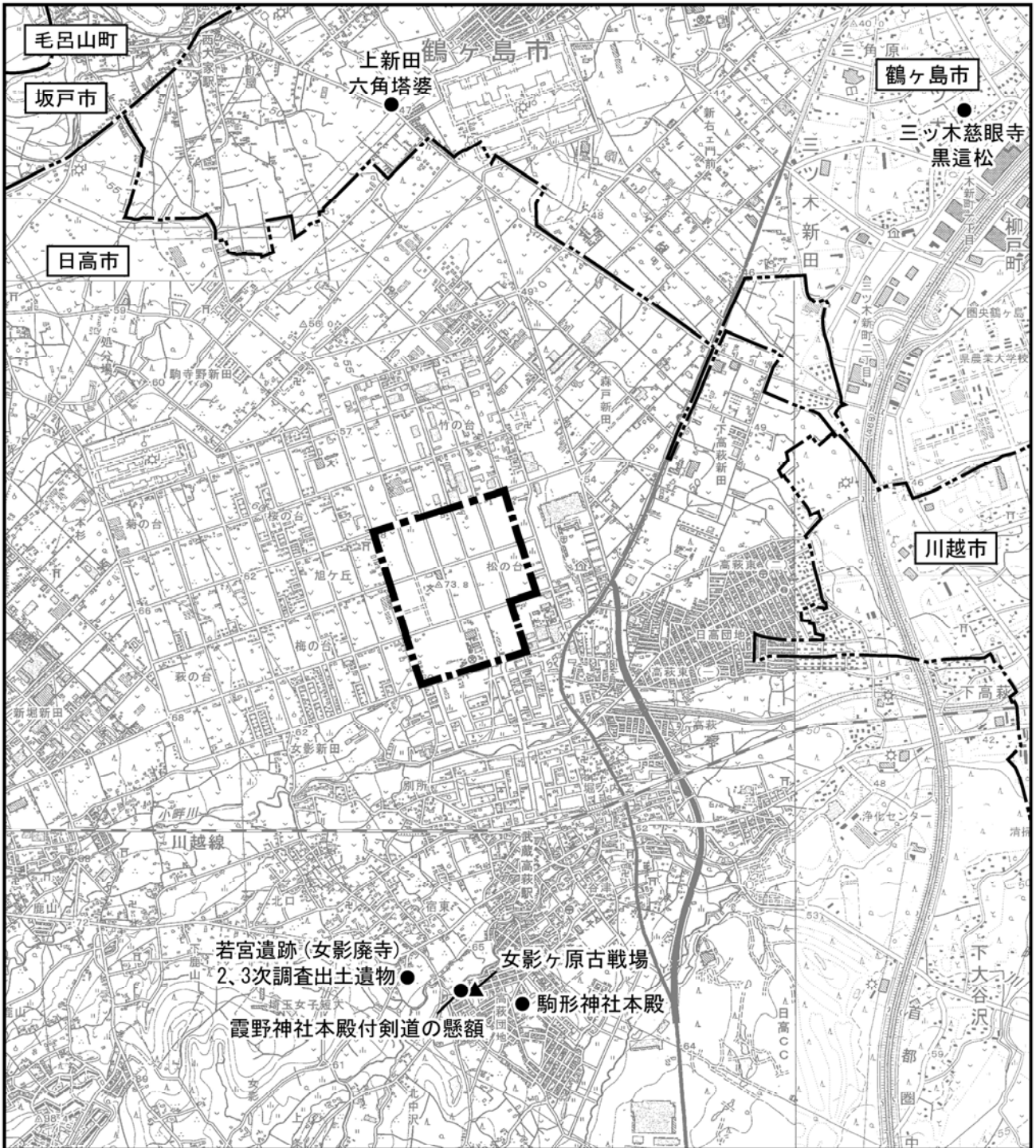
表 3.2-29 計画区域周辺の指定文化財

市	指定	区 分		名 称	所在地
日高市	県	記念物	旧跡	女影ヶ原古戦場	日高市大字女影 444
	市	有形文化財	建造物	霞野神社本殿付剣道の懸額	日高市大字女影 444
	市	有形文化財	考古資料	若宮遺跡（女影廃寺） 2、3 次調査出土遺物	日高市大字女影
	市	有形文化財	建造物	駒形神社本殿	日高市大字高萩 750
鶴ヶ島市	市	有形民俗文化財	民俗資料	上新田六角塔婆	鶴ヶ島市上新田 539-7
	市	記念物	天然記念物	三ッ木慈眼寺黒這松	鶴ヶ島市三ッ木 512

出典：「市指定文化財」（日高市ホームページ）

「埼玉県所在国指定・県指定等文化財一覧」（埼玉県ホームページ）

「つるがしま文化財マップ」（鶴ヶ島市ホームページ）



**凡例**

- — — 計画区域
- - - 市町界
- ▲ 県指定文化財
- 市指定文化財

出典：表3.2-29の出典を参照

図3.2-13 指定文化財の分布状況図

0 250 500 1,000m



## (2) 埋蔵文化財の状況

計画区域周辺の埋蔵文化財は表 3.2-30 に、位置は図 3.2-14 に示すとおりである。

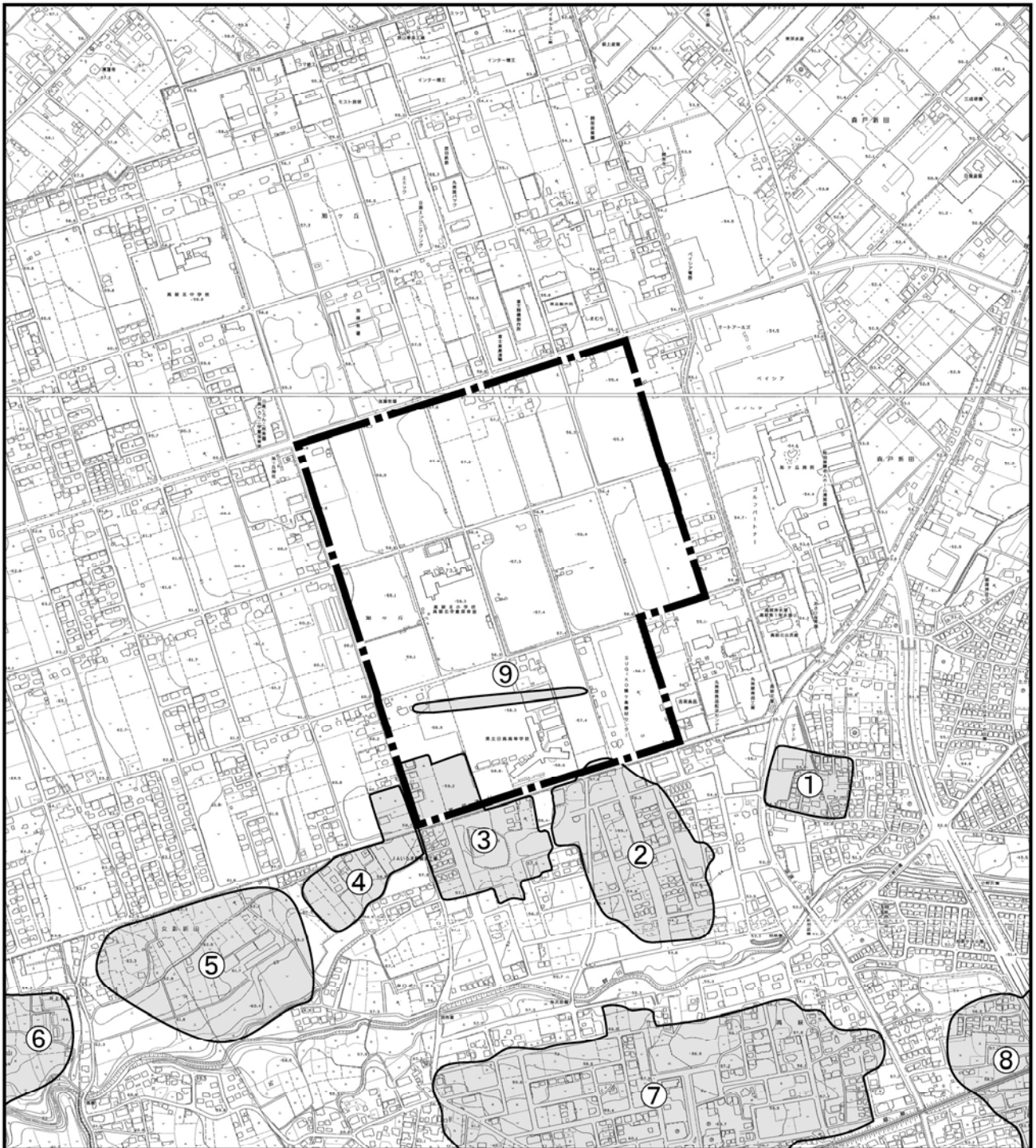
計画区域内には「旭ヶ丘遺跡」及び「捨石遺跡」、「王神遺跡」の一部が存在しており、計画区域南側に広く分布している。

表 3.2-30 計画区域周辺の埋蔵文化財

番号	名称	種別	主な時代
①	新宿遺跡	集落跡	平安
②	捨石遺跡	集落跡	縄文、奈良、平安
③	王神遺跡	集落跡	平安
④	中王神遺跡	集落跡	平安
⑤	道光林遺跡	集落跡	平安
⑥	大黒ヶ谷戸遺跡	集落跡	縄文、平安
⑦	堀ノ内遺跡	集落跡	平安
⑧	宿東遺跡	集落跡	縄文
⑨	旭ヶ丘遺跡	集落跡	奈良、平安、鎌倉、南北朝、 室町、戦国、江戸

注) 表中の番号は図 3.2-14 の番号と対応している。

出典：「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」（埼玉県教育局生涯学習文化財課）



**凡 例**

- 計画区域
- 埋蔵文化財

注) 図中の番号は表3.2-30の番号と対応している。  
 出典: 「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ 日高市」より作成 (埼玉県教育局生涯学習文化財課)

図3.2-14 埋蔵文化財位置図



### 3.2.8 一般環境中の放射性物質に係る環境の状況

計画区域周辺における放射線量の測定結果は表 3.2-31(1),(2)に、位置は図 3.2-15 に示すとおりである。

計画区域周辺における放射線量の測定結果は、0.0478～0.6780  $\mu$ Sv/h であった。

表 3.2-31(1) 日高高等学校における放射線量測定結果

項目	測定高さ (cm)	測定値 ( $\mu$ Sv/h)	測定高さ (cm)	測定値 ( $\mu$ Sv/h)
雨どい下	100	0.0572	1	0.1384
側溝	100	0.0826	1	0.6780
側溝	100	0.0924	1	0.4982
側溝	100	0.0688	1	0.2008
集水マス	100	0.0688	1	0.0484
側溝	100	0.0726	1	0.0896
雨どい下	100	0.0494	1	0.0870
集水マス	100	0.0746	1	0.0744
雨どい下	100	0.0556	1	0.0538
平均的な場所	100	0.0564	1	0.0796

注) 測定日：平成 23 年 11 月 24 日

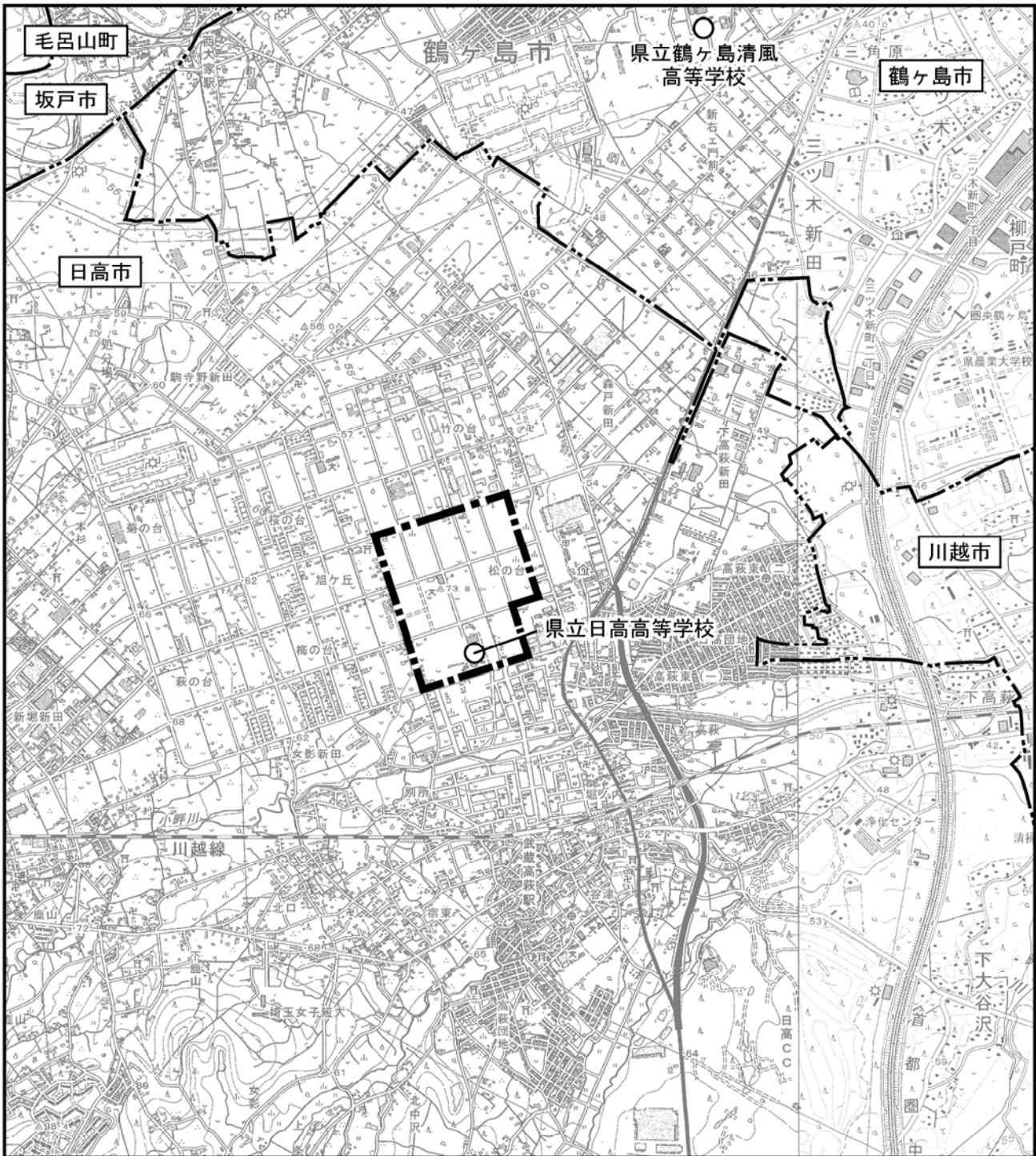
出典：「県有施設における放射線の測定結果について」(埼玉県ホームページ)

表 3.2-31(2) 県立鶴ヶ島清風高等学校における放射線量測定結果

項目	測定高さ (cm)	測定値 ( $\mu$ Sv/h)	測定高さ (cm)	測定値 ( $\mu$ Sv/h)
側溝	100	0.0720	1	0.0872
集水マス	100	0.0636	1	0.1046
雨どい下	100	0.0678	1	0.2142
集水マス	100	0.0632	1	0.0640
側溝	100	0.0608	1	0.0706
雨どい下	100	0.0794	1	0.1048
側溝	100	0.0766	1	0.0702
側溝	100	0.0676	1	0.1616
側溝	100	0.0590	1	0.0664
平均的な場所	100	0.0478	1	0.0562

注) 測定日：平成 23 年 11 月 22 日

出典：「県有施設における放射線の測定結果について」(埼玉県ホームページ)



**凡 例**

- 計画区域
- 市町界
- 放射線量調査地点

出典：「県有施設における放射線の測定結果について」（埼玉県ホームページ）

図3.2-15 放射線量調査位置地点

